

震災復興支援



日本生協連 笑顔とどけ隊

福島産桃 JA 共選場作業支援
(2017年7月29日～8月27日)

活動報告集



17年ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア概要

2017年9月12日

笑顔とどけ隊・チーム桃選果場

(内田、前田、菅野)

17年度も「福島応援隊・桃ギフト」の生産者である「JAふくしま未来」から、コープふくしまを通して、桃の最盛期にあたりJA共選場（桃を集荷し、それを一定の規格に仕分け・包装加工する作業場）の作業ボランティアの要請がありました。

日本生協連笑顔とどけ隊として、今まで全体の企画運営を一手に引き受けていただいた前事務局長・内山和夫さんが定年退職されたため、新たに笑顔とどけ隊・チーム桃選果場を組織し、役割分担をおこないながら調整を進めました。

今年度の企画は、現地のJAとのやり取りから、7月下旬から8月の桃出荷の最盛期を中心にボランティアを募りました。梅雨明けが遅れた影響で桃の収穫が遅れるといった影響も出るなどし、多くの参加者が農作物の収穫時期の難しさを実感したボランティアとなりました。本活動報告書集では、福島県の桃選果場での作業をとおして、日本生協連、C Xカーゴ、コープ共済連、コープクリーンからの参加者38名（のべ40名）が、現地の方と触れ合う中で学び取ったこと、感じたことがそれぞれの視点でまとめられています。ぜひご一読のほどよろしくお願いいたします。

1. 取組み期間

(1) 期間：7月29日（土）～8月27日（日）の土日祝の2日間（4回）

(2) 作業時間：土曜 09：30～18：00、日曜 08：30～15：30

2. 参加者人数

日程	7/29-30	8/5-6	8/11-12	8/19-20	合計
参加者数	13名	10名	8名	9名	のべ40名

3. 作業場所

JAふくしま未来

西部共選場 福島市笹谷字吉原 37 1

湯野共選場 福島市飯坂町湯野字田中前 1-1

伊達共選場 伊達市箱崎字東 1

もくじ

	氏名	部署名	日程	共撰場	ページ
1	屋代 香保里	品質保証部	7/29土-30日	湯野共選場	4
2	金子 則子	C Xカーゴ	7/29土-30日	湯野共選場	5
3	上荒磯 美代子	C Xカーゴ	7/29土-30日	湯野共選場	7
4	長谷川 悠人	C Xカーゴ	7/29土-30日	湯野共選場	9
5	足立 玄	日配商品部	7/29土-30日	湯野共選場	10
6	藤野 健司	水産部	7/29土-30日	湯野共選場	11
7	宮崎 朋子	C Xカーゴ	7/29土-30日	湯野共選場	12
8	菅野 昌英	産直G	7/29土-30日	伊達共選場	13
9	丹 敬二	内部監査室	7/29土-30日 8/5土-6日 8/19土-20日	伊達共選場 西部共選場 西部共選場	14
10	前田 昌宏	営業部	7/29土-30日	伊達共選場	15
11	土井 一朗	C Xカーゴ	7/29土-30日	伊達共選場	17
12	関口 周平	ブランドコミュニケーション推進部	7/29土-30日	伊達共選場	18
13	武藤 公弘	C Xカーゴ	7/29土-30日	伊達共選場	19
14	網代 淳一	C I S	8/5土 6日	西部共選場	20
15	長谷川 幸	東北支所	8/5土 6日	西部共選場	21
16	並木 智子	中央地連	8/5土 6日	西部共選場	22
17	堀 茂	開発管理部	8/5土 6日	伊達共選場	23
18	宮地 毅	地域・コミュニティ担当	8/5土-6日	伊達共選場	24
19	越後谷 道則	事業支援部	8/5土-6日	伊達共選場	26
20	松田 千恵	事業企画部	8/5土-6日	伊達共選場	28
21	皆地 恵実	戦略商品開発室	8/5土 6日	伊達共選場	30
22	安藤 津矢子	業務管理部	8/5土 6日	伊達共選場	32
23	大木 菜々	関西支所	8/11金 12土	西部共選場	34
24	北森 愛子	組合員サービスセンター	8/11金 12土	西部共選場	36
25	坂本 美咲	C E C	8/11金 12土	西部共選場	37
26	佐田 真朗	C E C	8/11金 12土	西部共選場	38
27	上垣 正美	共同開発推進部	8/11金 12土	伊達共選場	39
28	小林 真莉	ブランドコミュニケーション推進部	8/11金 12土	伊達共選場	40
29	片野 浩克	コープクリーン	8/11金 12土	伊達共選場	41
30	八反田 誠	品質保証部	8/11金 12土	伊達共選場	42
31	内田 実智子	マーケティング部	8/19土-20日	西部共選場	44
32	高畠 展子	生鮮原料事業推進室	8/19土-20日	西部共選場	46
33	坂本 容子	営業本部中央第2支所	8/19土-20日	西部共選場	47
34	富岡 美和子	広報部	8/19土-20日	西部共選場	48
35	小島 啓志	コープ共済連	8/19土-20日	西部共選場	49
36	青木 覚	コープ共済連	8/19土-20日	西部共選場	50
37	松井 洋一	日配商品部	8/19土-20日	西部共選場	51
38	渡辺 匡	開発管理部	8/19土-20日	西部共選場	52

日本生活協同組合連合会
品質保証部 屋代 香保里

【報告】笑顔とどけ隊 ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア

笑顔とどけ隊の活動に参加するきっかけとなった、桃の選別ボランティアに今年も参加させていただきました。昨年同様、湯野共選場での作業にあたりました。

参加前より「今年は桃が小さい」とニュースで聞いていました。実際、発育が遅れていて、あかつきという品種の最盛期であるはずの参加日は、暁星という品種とあかつきの端境期で、あかつき選別の初日にあたりました。

前日には大変な雨が降ったようで、昨年は雨で水浸しになったこともあり、副センター長さんは心配で夜中に共選場を見に来られたそうです。

雨のせいで桃の集荷が少なく、到着当日は早く作業をあがることになりました。

この日も日中、雨が強く降ったりやんだりを繰り返していて、翌日の桃の集荷があるのか心配していました。

二日目は集荷量があり、なんとかお手伝いをさせていただくことができました。昨年参加していたおかげで、気持ち的にスムーズに作業に入ることができました。

昨年は、恐る恐る桃をつかんでいました。恐る恐るつかんでいては桃をつかみ損なってしまうため、今年は傷まないようしっかりつかむことを覚えました。

緩衝材のキャップをかける桃の箱詰めも、少しは上手にできるようになりました。

昨年、お世話になった作業場のおばさんに「あんた、去年も。。。」と声をかけていただいた時は、とても嬉しかったです。

休憩中のおじさんから「ボランティア？ あんたは何をもらうの？」と声をかけられ、問いかけられている意味がわからず戸惑っていると、ボランティアと言えど何もないと人が集まらないのか、コンサートチケットが報酬のボランティアもあったようです。

私たちもJAさんの厚遇でボランティアとは言えませんが、繁忙期の人集めには苦慮されているようです。

当たり前のようにスーパーに行けば農作物を買うことができる世の中ですが、農家さんの高齢化や地方の過疎化で、日本の農業が心配になってしまいます。もっと役に立てることはないのだろうか。。。

JAさん、共選場の方々、今回ご一緒した皆さん、お世話になりました。

笑顔届け隊 ふくしま桃選果場支援ボランティア報告（7/29～7/30）

報告者：(株)シーエックスカーゴ 第四事業本部 DC物流管理室 金子則子

報告日：2017年8月1日

今回3回目の参加となりました。

7/29（土）当日、朝5時過ぎに会社ワゴン車で拾って頂き、CXC参加6名で圏央道・桶川北本ICより出発しました。どんよりとした曇り空で昨年同様ピークで忙しかったらいいなと思いながら向かって行くととどどん雨模様になって行きました。

集合場所の伊達駅に8:30に付き、他の方々を待って、それぞれの選果場へ分かれて出発、私は昨年と同じ湯野共選場に行きました。

安齋副センター長と挨拶、「7月の中旬に温度が30℃越えになり桃の発育が止まってしまった上に前日の大雨で出荷が少ない」との話がありました。量によっては午前中で終わるかもとのことで折角お手伝いに来たのに申し訳ないと思いました。10時からの朝礼の後、選果場の説明をして頂き、人は揃っているが、肝心の桃がないとの事で、ラインではなく、イレギュラーの桃詰めをしました。今は暁星とあかつき切り替え時期で5号機まである所、1号機と2号機しか稼働していませんでした。イレギュラーの桃詰め終了後、1号機と2号機に分かれてライン入りました。2号機ラインに入ったら、昨年と同じ阿部班長の所で、昨年も来たねと覚えていてくれました。

作業は秀の20玉と22玉の所で段ボールにラベルを貼って補強したり、桃がいっぱいになったらお手伝いの仕事でした。16:00過ぎに仕事終了しました。旅館に送って頂き、ピークを予想していたので、不完全燃焼で残念でした。

福住旅館では夕食も朝食もおいしく、お風呂の温度も丁度良いので夕方、夜、朝と3回も入りました。

2日目は9時からの朝礼の後、1・2・3号機に分かれて入りました。午前中はあかつきを箱詰めし、4号機に移り、終わりかけの暁星を箱詰めしました。箱に4個入りパックが6個並んでいて、流れて来た桃にキャップ付をしてパックに4個詰め、桃の割れ目の向きを左横に統一して入れました。向きをきれいに入れてくれて有難うと言って頂きました。2日目はたくさん仕事が出来て良かった、時間があれば夕方6時までやりたかったです。

暑かったし、腰・足・肩も痛かったけど、参加して良かったです。

最後にJAふくしま未来の方々に受け入れて頂いたお礼と宿泊と送り迎え、お昼のお弁当とサポート有難うございました。また、企画・調整をして頂いた方々、有難うございました。

また、一緒に行った皆様楽しかったです。有難うございました。

来年も機会が合えば参加したいと思います。

注意された内容を記載いたします。キャップは桃が半分位出るように浅目に付ける。きれいな桃をよく見せるため。段ボールに貼るラベルはまっすぐきれいに貼る。オリコンに詰めた桃は空段

ボールの下のレールで流す。箱詰め完了の桃はラベルを流れる方向の先頭にしてシュート下のレールに流す。後ろ側が枝で穴が開いている時があるけど、乾いていたら良品として扱うとのこと。



2017年福島「桃」JA共選場作業支援報告

(株)シ-エックスコー 上荒磯美代子

日程： 2017年7月29日(土)～30日(日)

活動場所： JA ふくしま未来 湯野共選場

活動報告

1.指導内容

選果場内にはラインが4つあり、桃の種類と数量で使用するラインが決まる
保護キャップの被せ方(桃の7割を覆う_箱に詰めた時一番きれいに見える)、箱詰め
の仕方(桃のお尻の線の向きを揃える)、

桃は手に取ったらひっくり返して、柔らかいところがあるもの、穴が開いているもの
など傷みが見えたものは箱詰めしない(班長さんに判断してもらう)

割り当てられた担当レーンの桃対応だけでなく、桃が溜まっているレーンを手伝う
担当レーンの表示と同じラベル(桃の種類と数量を記載)を箱に貼って桃を詰める
詰め終わった箱はラインの流れを見て進行方向に箱のラベルが来るようにして流す

2.作業内容

- ・ 一日目は昨日来の雨で出荷数量が少なくライン外での作業で、パレットに乗った桃を
班長さんの指示で詰め変えたり、次作業で使うプラ容器を準備したりの作業が主でし
たが、早上がりになりました
- ・ 二日目は朝から農家さんの桃持ち込があり、ラインでの箱詰め作業を担当しました。
ライン作業は農家さん毎に投入した桃を光センサーが選別し該当レーンに流れるシス
テムになっており、割り当てられたレーンに流れてくる桃を箱詰めしてラインに流す
箱にラベルを貼る 桃を詰める ラインに流すの作業の繰り返しです
- ・ 農家さんによって大きさなどが同じだと同じレーンに集中して次々と桃が流れてくる
ので、ラベルを貼って箱を用意するのが間に合わないくらいの時もあります。その時に
は班長さんや別レーン担当の方などの手助けで乗り切ります。また自分のレーンの流れが
途切れだすと、目に入る範囲内で担当不在のレーンの桃の溜まり具合を見ながら箱詰め
をして回ります。「ありがとうね」と言われたので少しは役にたったようです
- ・ 失敗談ですが、奇数ラインと偶数ラインではまわり方が違うけど、ライン進行方向に
ラベルを向けて流すように指導されていたのに、置台に箱を置くときのラベル位置確認
を漏らしたようで、一箱の向きを反対に流してしまい次を流す前に指摘を受けました。
流れ作業の中では同じ間違いが起きやすく次に続く担当者の負荷が増えるので、間違い
を断ち切るために即時でみんなの前での注意だと教えられました。

感想

前回2014年は8月中旬参加でピーク終わりだったので、最盛期にと思い参加しましたが
今年は天候不順で生育遅れのため収穫量がまだ少なく今回も話に聞いている大汗をかくこ
となく終わってしまいました。次回こそは最盛期にいけたらと思います
それと前回の選果では選別された桃がレーンの上からコロコロと流れ落ちていましたが、

今回は小さいタイヤに乗せられてラインを流れてきて、そのままレーンに滑り込んできました。進化だなと驚きつつ、桃の傷みが少なくなるように大事に扱われているなあと感じ入りました。システムだけでなく選果場の皆さんの桃を大事にし福島の桃に誇りを持っている事も作業を通して随所で感じました。

最後に日本生協連から参加された方々の豊富な話題のお蔭で会話も楽しかったです。

(カーゴからの参加者と同じになるので写真の貼付は無しです)

タイトル	【笑顔とどけ隊】福島桃 JA 共選場ボランティア報告		
参加日	7/29・7/30	作成者	長谷川悠人
<p>7/29～7/30にかけて日本生協連さん7名、CXカーゴ6名の計13名でボランティアに参加した。そこからさらに2つの共選場に分かれて私は湯野共選場でお手伝いさせてもらうことに。私たちが参加したタイミングはおそらく悪く、雨天のため桃があまりこない状況下、正直役に立っていないという印象を受けた。不完全燃焼なまま初日を終え、旅館まで送っていただいたが、部屋も料理も申し訳ないくらいの歓迎ぶりだった。これらは全てJAふくしまさん負担とのこと。旅館滞在中も勉強になることがたくさんあり、日本生協連さんの方々の話を聞き、入社間もない自分にはとても刺激的で有意義な時間を過ごせた。そういった意味でもボランティアに参加したことは私にとって有益だった。</p> <p>2日目は初日と比べれば桃がそれなりにきて、それなりにお役に立てたのかと思う。最後に、JAふくしまさんから桃をもらい帰った。私は正直ボランティアに参加する前までは乗り気ではなく、なぜ無償で労働を提供しなければいけないのかと考えていたが、ボランティアも含め他の参加した方々との情報共有など、普段では得難い経験をさせていただき、参加した意味があったと心の底から思う。次回、同じような機会があったときは是非参加しようと思う。</p>			
			

ふくしま「桃」JA 共選場作業支援ボランティア活動報告



日配商品部 足立 玄

日程：7月29日-30日

場所：JA 湯野共選場

参加理由：昨年も参加させて頂いた同ボランティアで人手不足を痛感しました。今年も最繁忙期には多くの人手が必要になると予測されることから参加を希望しました。

活動内容：初日の午前中は共選場の平置きスペースで出荷先別に桃の仕分け作業を実施。前日が伊達エリアで観測史上最大の大雨があったとのことで桃の入荷数自体は少なく昨年に比べると桃の品質も小ぶりの印象でした。

午後からはライン作業に従事。入荷された桃が機械で自動選別され、大きさごとに振り分けられてくるものを箱・オリコンに詰めて流すという作業を繰り返しました。作業者の方々はパートタイム・高校生・中学生アルバイト等様々でした。初日はやはり全体数が少なく15時には作業終了となりました。

翌日は初日午後の作業を9時30分～15時の時間で途中昼休憩をはさんで実施しました。この日は入荷量も初日と比較すると多く、かなり作業に集中できました。アルバイトでも高校1年から3年間経験しているベテランさんもいて選定作業は思わず驚嘆してしまうほどの早業の持ち主もいらっしゃいました。リーダーさんがそうしたそれぞれの作業者の能力やキャラクターをしっかり把握されていて和気藹々とした雰囲気を作っているのが印象的でした。

活動振り返って：昨年もですが、JAの方々には宿泊や食費含めて本当に手厚い歓迎を頂いて恐縮してしまいました。

また桃については、現在では風評被害も薄れているとはいえ、そもそもの働き手が不足していることを感じました（特にご高齢の農家の方々が桃を共選場に持ち込まれる際にそのことは痛感しました）。様々な生協が福島の商品を買い支える取り組みを実施していますが、肝心の働き手の問題についても考えていかなければならないのだと思いました。

今後も自分に何ができるかまた考えて別のボランティアへも参加をしていきたいと思えます。

以上

<笑顔とどけ隊> 福島選果作業参加報告 (2017/7/29~30)

水産部 藤野 健司

1. 作業内容

J Aふくしま未来 湯野共選場(福島市)

29日(土) 5kg詰め一旦詰めたものを別の形態に詰めなおす作業の補助(ダンボールの整理、箱の運搬、資材を準備)

途中から選別箱詰めライン(第1ライン)「あかつき」スタート

30日(日)

選別箱詰めライン(第1ライン あかつき)

2. 学んだこと

- ・効率的な作業補助の動き(当初なかなか動きが慣れず)について。
- ・やってくる桃のつかみ方、箱入れのしかた、ラインへの流しかた
- ・ラインの中では大型(18、20玉)、小型(25玉)と規格外を担当したが、やってくる桃を箱に入れながら新たな箱を作るタイミング

3. 気づいたこと

- ・サイズアソートが、ロットにより違うため、暇な時と、大量に一気にくる時が交互に来る。25玉ばかり来る時、20玉に集中する時、等。その時には他の作業員の助けを借りる(箱が作れないので作ってもらったり、ラインに入ってもらったり)。結構共同作業になる。
- 最初は結構余裕がなかったが、波が分かるようになると、「さあこい！」と余裕がでて、受け入れられる。

4. 次回へ向けて

- ・結構手がかゆかったので、次回は軍手をはめるか考える。ただ、滑ると桃を落としてしまうのはまずいし…。
- ・宿についてはかなり心地良く、宿代等を考えると、完全な赤字だと思うので、正直宿代は持ってもいいかなと思った。
- ・CXカーゴの皆さんの団結力を間近に見た。雰囲気の良い組織だとうらやましく感じた。
- ・今回は、いつもの年(はこのころがピーク)より収穫が順調ではなく、遅いことと、前日に記録的大雨が降ったこともあり、選果場への搬入が少なく、初日は10時から3時で終わってしまった。貢献できたのも今回は6割くらいだったかなという気がした。
- ・伊達のチームとも交流でき、良かったです。さえないリーダーでしたが、ありがとうございました。



以上

【参加報告書】ふくしま桃共選場ボランティア（7/29-30）

昨年初めて参加させていただき、今回で2回目の参加となりました。昨年一緒に参加された日生協の方と今回もご一緒出来、ボランティアでしか関わることのできない日生協の方と定期的な交流の機会が作れていることに嬉しさを感じました。今回もJAふくしまの方と一緒に参加したみなさまのお陰で大変楽しい2日間を過ごすことが出来ました。

一日目は、集合場所の伊達駅から各共選場へ分かれて移動し、到着後すぐにエプロン着用後、副センター長の さんに共選場内の案内をしていただきました。その後は、朝礼に参加し、作業支援に入りました。作業としては、昨年と同じようにレーンから流れてきた桃を緩衝材で包んで箱に梱包する作業を主に行いました。しかし、7月の連日の猛暑で桃の成長が遅れ収穫のピークが例年より遅いということと雨の影響で仕分ける桃が少ないという状態で1日目は14:30に終了となり、作業自体も人手が余りお役に立てている実感がありませんでした。

二日目は、天候も良く昨日より桃が多く共選場に入ってきており、朝9時から15時の終了までずっとラインに入って箱詰め作業を行いました。透過式センサーで糖度や大きさ、重さが測られ等級別に指定のラインに流れてくるものを箱に詰めていく作業は、単純な作業ですが、品質が重要な果物を扱っている点と一つ一つの単価の高さを考えると丁寧にやらなければならない、シーエックスカーゴで行う現場作業では感じない素手で生ものを扱う緊張感を感じながら行いました。

2日間とも涼しいほどの天候で雨が時折降っていましたが無事にボランティアを行うことが出来ました。また、昨年と同じ共選場ということで一年ぶりに会った共選場の方々から声を掛けていただきとても嬉しかったです。去年の夏に2日間しかいなかった私のことを覚えていただいていることに人との繋がりは長さではないと感じ、最後は、「来年もよろしくお願いします」と声を掛けて再会を約束することが出来ました。このボランティアは、単なる作業支援ではなく、JAふくしまの方々や共選場で働いているの方々、一緒に参加する日生協グループとの交流がとても意義のあることだと感じました。そして、現地の方とお話しや現地に直接赴き肌で体験し伝える人との繋がりの暖かさを感じる2日間でした。しかし一方で、そのことで「風評被害」というものの大きさも考えさせられました。情報がすぐに広範囲に拡散されネットなどの情報に揺さぶられる世の中ですが、現状を自分の目で見て情報を現地で知ること、誰からの発信か分からないたくさんの情報より人との繋がりに得た生の声の方が確かだということを改めて学びました。

今回も良い経験をさせていただきました。企画運営して下さったみなさま、本当にありがとうございました。また別のボランティアでもお会いできることを楽しみにしています。

福島桃共選場のボランティアのこれから

産直グループ 菅野昌英

お天道様次第・・・

第1回目のボランティアに参加しました。天候が不順で前日には激しい雨に見舞われたこともあり、桃の入荷はまだ少なく、アルバイトの高校生と共にやや手持無沙汰な時間が多い、ボランティアとしては不完全燃焼で終了した2日間でした。

「明日は入荷量が多いだろう」という場長の予測もあっさり裏切られました。桃を持ち込むお母さん、「もっとでないの?」と聞かれて「天気わるくて、色わりんだぁ」と話していました。たしかに入荷量予測は難しそうで、お天道様次第の部分大きい農業の難しさを実感させられました。共選場の作業者を確保するためには、期間・人数をある程度おさえておく必要があります。共選場が必要としているのは、明日入荷量が増えそうだからと臨機応変に対応できる作業者のようです。



笑顔とどけ隊の関わり方

現在、共選場で困っているのは、絶対的な作業者の不足よりも、入荷量に応じた作業者の確保だと思われます。これは原発事故による問題から一般的な共選場の問題に移行しており、当初の絶対的な労働力不足にあった福島の産地を支援するという段階は終了しつつあると考えられます。これは福島（この場合、福島・伊達地区）が着実に平常化しているということであり、うれしいことです。それにあわせて、笑顔とどけ隊の関わり方も、JAふくしま、コープふくしまと話し合いながら変えていく必要があるでしょう。

福島にふれること

福島の問題は地震や豪雨による被災とは異なる難しさがあります。福島の桃を「食べる人はもうまったく気にしなくなった、でも食べない人は絶対食べない」という状況は固定化されつつあるように見えます。この目には見えない壁が、今後もずっと福島を覆っていくとすれば、それは福島の人にとって悲しいことであり、日本にとっても不幸なことです。

これから必要なことは、理屈よりも生身で福島にふれて福島のことを知る機会ではないでしょうか。幅広く、多くの人が、福島に行くこと、生の福島にふれること、笑顔とどけ隊がそんな機会をつくることできれば素晴らしいですね。

2017年度JAふくしま未来選果場ボランティア報告書
(7/29~30、8/5~6、8/19~20の3回分)

内部監査室 丹敬二

今年は欲張って3回(合計6日間)のボランティアを経験しました。その中で福島の状態や果物(桃)の状態を感じたのでその感想を記載して報告とします。

【多くの人手と機械の手間を経て私たちに届く果物】

(7/29~30は伊達選果場、8/5~6と8/19~20は西部選果場にお邪魔した、昨年は湯野選果場だったので、3箇所の選果場を経験したことになる。

いずれの選果場も収穫時期ということがあり、多くの従業員(派遣やアルバイトの方含む)が働いていた。

私たちが関わった、選果場の工程でも、人手での選果(不良果の排除) 光センサーで糖度や形・色の選別 規格分け(大きさ毎に箱詰め工程に送付) 小粒は、規格毎のプラスチック受け皿を箱詰、大粒果実のフルーツキャップ被せ ダンプ・箱詰(一部の選果場では、小粒果実はロボットで箱詰め) 箱の糊付梱包 規格毎のパレット積 トラック積込 輸配送と工程が沢山に分かれ、規格も大きさを(5Kg箱の中の個数で13、15、16、18、20、22、25と)7段階、甘さや色で(特選、特秀、青秀、赤秀と)3~4段階といった風に分かれていた。

正直桃は、私たち一般消費者にとっては、高級な果物となっている。その実状が、こうした多くの人手と機会の手間を経てなったものであることを目の辺りにして、正直割り切れないものを感じたのも正直なところだった。(ここまでして手間・コストをかける必要があるのだろうかと・・・)

【原発事故の影響はボランティアの範囲ではほとんど感じられない】

今回は東北新幹線と福島市周辺のみでの訪問であったので、その範囲では、原発事故の影響は目には見えなかった。まだまだ風評被害は続いていると思うが、日曜日の働き手が不足気味(お盆の時期もあり日曜日は休む方が目立った)の他は、即売所に来る地元のお客さんの数などを見る限りは、(地元では)福島の桃が拒否されている風には見えなかった。(あくまで一部分しか見ていないので何とも言えませんが・・・)

唯一8/20の朝に宿泊した旅館の周辺を散歩した際に、梨畑に『樹園の除染をしています。(平成28年9月9日から平成29年9月29日まで)発注者福島市農政部、施工者株式会社』という看板を見かけたことくらいだった。まだまだこうした状況は県内いたるところで続いていると考えられるので、私たちのボランティアでもこうした実情を感じ取る内容があってもよかったと思ったりもした。



いずれにせよ、この2年間の福島桃選別ボランティアで、福島の農作物の一部に直接関わる機会を得ることが出来た。その点は良かったと思う。でも、全農通じた依頼だというし、宿泊や選果場への送迎など先方のJAに頼っており、本来のボランティアの基本である、現地との交流・連携がどれだけ図れるのか疑問の面もあった。

来年からは、この取り組みもコープふくしまやJA福島未来と直によく相談して、現地の要望にそって行うことがより目的に近づくと思う。個人的には良い経験をさせていただいたので、笑顔届け隊の担当の方、JAの方に感謝申し上げたい。

日本生協連笑顔とどけ隊 ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア

日本生活協同組合連合会
営業本部 営業部 前田昌宏

参加日程 : 7月29日(土)・30日(日)

会場 : JAふくしま未来 伊達共選場

1. 参加動機など

桃の共選場でのボランティアは2014年以来で3年振りの参加です。長らく参加できていませんでしたが、福島現状を少しでもこの目でみたいと思い参加に至りました。開催日の前日に伊達市で豪雨があり、道が川のようにになっているニュース映像を見たため開催できるのか心配しましたが、当日は小雨となり無事に開催することができました。

2. 現地の状況および担当業務

毎年の同じ時期であれば「あかつき」の収穫ピークを迎えているはずでしたが、まだ梅雨が明けておらず作業量はかなり少な目でした。以前は桃の選果作業(等級ごとに分けて箱詰めする作業)を担当しましたが、今回は収穫された桃が各農家から搬入される入り口の荷おろしの作業や、最後の箱詰めされた桃の整理の作業などを担当させていただきました。

私の担当はちょうど入り口のところ。農家さんが軽トラなどでその日収穫された桃を持ち込まれ、それを積み降ろして選果作業が円滑に進むように並べていくといったものです。各農家とは荷おろしの際に持ち込んだ桃の数量を明記した伝票のみをやり取りします。



搬入された桃。これでもピークではない。



側面のコードでどの農家の桃が判別します。



一旦搬入した桃を選果ラインに送り出します



選果後、箱詰めされた桃を等級ごとに整理してパレット積みを行います。

3 . 印象に残ったこと

各農家の方がいらっしゃる中で短時間ですが挨拶やお話しもさせていただきました。言われていた印象的なことは桃の価格に関すること。桃の収穫量は震災以前と比較して回復しているものの、震災以降は他県産の桃と比較しても価格差が埋まらず農家としては厳しい状況にさらされているとのこと。そのような実態に胸が痛みました。しっかりと放射線検査もされているし、味も遜色ないものなのに。消費者としてもしっかり買わせていただく以外に何ができるのか考えなくてはいけないと思いました。

帰着後に何名かの方と福島の桃についてお話ししましたが、横浜にお住まいの方だと、山梨県が近いのか近隣のスーパーには全く福島県産の桃が入っていないとのこと。関西にお住まいの方なども同様のようでした。福島の桃の魅力をどのように発信できるのか考えさせられます。

4 . おわりに

今回の支援では2014年のお手伝いの時の選果作業とは異なり、農家の方と接することができるポジションでお仕事をさせていただき、また違った関わりができた良い経験でした。農家の方は寡黙な方が多かったのですが、挨拶もそこそこにカブトムシをくださったり(害虫なので嫌われるそうです)気さくな方も多くいらっしゃいました。また、農家で搬入に来られる方は恐らく親子連れと思われる方が多く、若い方に仕事が受け継がれているのかなと、少し嬉しく思いました。

最後にJAの関係者の皆様、活動をご一緒させていただいたメンバーの皆様ありがとうございました。

以上

【報告】日本生協連笑顔とどけ隊 ふくしま「桃」JA 共選場作業支援ボランティア

株式会社シーエックスカーゴ
総務人事部 部長 土井 一郎

昨年参加させて頂いた同ボランティア。楽しかったことや仕事の的に見てもとても興味深かったことから、今期も狙っていたところ、うまく今回の日程だけ仕事が外れていたため、参加させて頂くこととしました。

シーエックスカーゴからは私を合わせて6名が参加。福島市の湯野・伊達市の伊達の共選場2カ所に分かれ、桃の仕分け、箱詰めや箱積みの作業にあたりました。この作業、私たち生協のセットセンターの仕事に酷似しています。桃の入庫(共選場へ生産者が持ち込む)の際、箱の数を確認する、生産者が切り替わるところに表示を入れる、などから始まり、最後の木パレへの積みは配段を間違えないよう、箱の向きもラベル面が外側になるように積むなど。作業の品質や生産性を上げるための、班長さんや先輩方からのレクチャーのポイントは思わず笑ってしまうほど私たちの現場とそっくりです。私が作業していたところでは、箱に封をするシーラーがトラブったのですが、まさに袋掛け機のトラブルと一緒に！停止から復旧、再起動をかけるところまで一連の工程をマスターするのに全く苦労がないほどでした。

1泊2食はJAふくしま未来さんに手配頂き、ボランティアに来たとは思えない厚遇ぶりです。たまたま花火大会の日に合ったため、宿の窓から花火が上がる様子が見えるという贅沢さ。ボランティアなので賃金は発生しないと言っても、いかに作業人員集めに苦労しているのかがうかがい知れます。一緒に働いていた高校生のアルバイトの時間給は750円。昨年は720円だったはずとJAの方に尋ねてみると、やはり最賃の引き上げへの対応だそうです。売り上げは全く上がっていないのに人件費だけが上がり、収益への影響は大きいとのことでした。

ボランティアの段階は災害復興から、深刻さを増してきた少子高齢に伴う生産者の高齢化と人手不足への対応といった感じになっています。福島における放射能の風評被害などの影響により、震災前は桃を道端で自由に売っていた生産者が、震災後は放射線量チェックを受けるためなどもあり、共選場への持ち込みが増え、JAとしての扱い量は増えているとのこと。となると、以前はギリギリまで樹木につけ、完熟手前を待って収穫していたのですが、今は色づき・糖度が増す前に収穫することになります。こうなると、等級が下がってしまい、直接消費者に売らないことも相まって、生産量の割に生産者の収入が下がってしまうことになります。また、ギリギリまで待つということはこまめに畑を見回ることになるわけですが、高齢化に従いそのようなことも出来なくなっているようです。加えて近年の激しい気象の変化に影響を受け、収穫量も品質も思うようにいっていないとのことでした。これらは当然ふくしまの桃だけの問題ではありません。ボランティア自体はとても楽しかったのですが、一体日本の農業はどうなってしまうのだろうと、少し鬱な気分で見送りました。

受け入れて頂いたJAふくしま未来様をはじめ、仕事を教えてくださった共選所の皆様、ご一緒させて頂いた笑顔とどけ隊の皆さん、2日間、ありがとうございました。

以上

ふくしま 桃共選場 ボランティアに参加して

事業広報 G 関口

7月29～30日にかけての2日間、収穫の最盛期を迎えんとするJA福島 伊達共選場のへ、ボランティアに伺った。

共選場の現在の大きな流れとしては、毎日午前中に農家の方がその日収穫した桃を最寄りのJAへ納品、納品された桃を共選場で順次仕訳し、1個1個、糖度と色・形状を選別する2種類の光センサーに通され、「秀」「特秀」といった具合に選別され等級に応じて仕入金額が確定し、後日農家に振込まれる思った以上にシステムチックな仕組み。

当日は朝～昼過ぎまでの間に次々と農家から桃が運び込まれていくことが想定されたが、7月下旬で梅雨も明けきっておらずまだまだ最盛期とは言えない時期であったことに加えて、前日夜～当日朝まで降り続いた大雨の影響で、あまり当日の収穫量としてはそれほど多くなく、両日とも午後早々には選果作業が終了してしまうという有様だったのは非常に残念であった。

当日のボランティア作業については、初日午前中は農家の方が持ち込まれた桃の荷卸しと、選別レーンへの輸送補助を担わせて頂いた。収穫した桃が沢山入った箱やパレットは相應の重量になるが、油断してぶついたりして中の桃が傷んでしまうと、その分が農家の収入に対してマイナスになってしまう、まさに「桃一つ一つがお金と同じ」という表現がぴったりの状況であり注意を払いながら行った。

初日午後からは、共選場へ持ち込まれる桃の量が少ないこともあり、共選場隣接の即売所で販売する為のケース作りに取り組みさせてさせて頂いた。

即売所では、市場に出荷するには多少色が悪いいわゆるわけあり品が箱満杯で非常に安値で販売されていたりと、特に雨の止んだ日曜日は一時長蛇の列が出来ていたり大変盛況だった。

当日はJAや近隣農家の方の他、アルバイトの高校生の姿も多数見受けられた。収穫の最盛期と学校の夏休みがうまくマッチングしているという意味では貴重な戦力かと思われが、ピーク時はそれでも夕方～夜までかかることもしばしばあるそう。

今回は時期的にも天候的にもいまま一つでボランティアとして2日間十分に期待された力を発揮できたかという疑問が残るが、来年以降もぜひ時間を合わせて参加していきたいと感じた。

【報告】日本生協連笑顔とどけ隊 ふくしま「桃」JA 共選場作業支援ボランティア

株式会社シーエックスカーゴ
総務人事部 人事課 武藤公弘

7月29日・30日のふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティアに参加させていただきました。「笑顔とどけ隊」ボランティアにつきましては2014年4月宮城県宮古市田老町に参加して以来2回目となります。前回参加させていただき、まだまだ復興には程遠い現状を拝見させていただき心を痛めると同時に、その中でも被災者の皆さんの明るい笑顔に、却って元気を頂いたものとなりました。それから継続的に参加を希望していましたが、なかなか日程都合がつかずに今回の参加となりました。

今回のふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティアにつきましては、当方の役割分担としては、選別・仕分け・箱詰めされた段ボール(箱)を企画毎に仕分けするという役割でした。ただ当日あいにく早朝からの雨により、集荷いただいた桃の量が少なかったのが残念でした。当然、農産物であるため気候に影響されますので、このボランティア企画をされる「笑顔とどけ隊」の皆さん、またJAふくしま未来様もご苦労が多いことと思い、たいへん恐縮することとなりました。また宿泊先についても、創造以上の厚遇にておもてなしを頂くことになり、ますます恐縮し、もっともっとボランティアとして貢献できたらという思いを強くしました。

ただ前回の田老町でのボランティア参加の際にも感じましたが、ボランティア参加により、また被災地・被災者の皆さんと直接接する機会を設けることにより、その復興に向けての笑顔を拝見することにより却って元気をいただくことも事実です。当然、笑顔の奥には、表面には出されない創造も絶するご苦労をお持ちかと思えます。ボランティア参加者を私たちが増やすことが、その笑顔に応える1つの形かとも考えますので、今後のボランティア普及につなげて行きたいと思えます。

簡単ですが、レポートとさせていただきます。企画・運営誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

以上

福島桃共選場ボランティアに参加して

2017/08/16

コープ情報システム 網代 淳一

8月5、6日の2日間、2回目の福島桃共選場ボランティアに参加しました。

初日の8月5日土曜日は福島へ新幹線で移動し、最寄り駅に着いてからは西部共選場に車で送ってもらいました。西部共選場のチームは、丹さん、並木さん、長谷川さん(8/5のみ)、網代の4名でした。共選場の紹介/責任者の挨拶等はなく、到着後すぐに桃にカバー(フルーツキャップ)をつけて箱詰めする作業を開始して終日行いました。陽も射して思っていた以上に気温が上がり、蒸し暑くなりました。桃の毛(?)が飛んで腕がかゆかったのですが、暑いので用意していた上着を着ることは出来ませんでした。昼食は車で近くのドラッグストアに連れて行ってもらい、お弁当を各自で購入しました。この点は他の共選場とは違ったようです。この日はフルーツキャップをつける作業者は多く、手待ちとなることもありました。18時過ぎにこの日の我々の作業は終わり、宿泊場所へ車で送ってもらいました。名前は旅館となっていますが隣接する福島県免許センターへ免許取得のため前泊者を泊めるのが目的と思われる宿で、合宿所のような感じの所でした。食事の品数/量は多くありましたが、宿泊していたのは我々3名のみでした。近くに飲食できるような所は無く、食事後はコンビニでお酒やつまみを購入して部屋で談笑しました。

8月6日は、朝から15時頃まで作業を行いました。この日は私は終日、ラインを流れてきた桃の箱をパレットに積みつける作業でした。箱1つ1つは3キロ程度なのだと思いますが数が多い(1日で500箱程度積付)ので疲れしました。この日の昼食は手数をおかけしないよう、宿の出発前にコンビニで買っておきました。15時の作業終了後に事務所で待機(出発待ち)をしているときに宿のことでJAの方からお詫びが有り、高校総体と重なり飯坂温泉の旅館が取れなかったためとのことでした。

今回は西部共選場チームのリーダーとなり緊張していたのですが、大きな問題等も無く無事に終わられて良かったです。今後も、私でできる限りのことを続けていこうと考えています。

以上

ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア活動報告

東北支所 長谷川

日程： 2017年8月5日(土)

活動場所： JAふくしま未来 西部共選場

活動内容： 桃のキャップ付けと箱詰めを4名で対応

活動報告・感想など

- ・荷物置き場にお借りした事務所でJAの方々に軽くご挨拶をさせていただき、すぐに対応スタートとなりました。
- ・作業の流れ、きれいに並べるコツを作業台担当のリーダー：晴男さんから一通り教えてもらい作業開始。10時に休憩、午前中は12時まで対応、お昼は近所のドラッグストアまで車に乗せていただきお昼ご飯を購入、共選場の敷地内にある休憩スペースをお借りして13時までお昼休憩、午後は15時に休憩をはさみ、18時頃まで対応しました。
- ・対応した内容は桃のキャップ付け 箱詰め、今回は5kg大箱のみの対応でした。
- ・特秀・秀などランクとサイズごと仕分けされて箱に仮置きした状態でラインから流れてくる箱を、それぞれ作業台で桃に傷がないか確認 カバーキャップを付ける 向きをそろえて箱に並べる バーコードの向きを前方にして箱ラインに流すの繰り返しです。玉数により並べ方が異なるため慣れるまでは注意が必要でした。
- ・「あかつき」最盛期タイミングで16時頃まで「あかつき」、それ以降は少量ですが「白鳳」箱詰めに対応しました。繁忙期は夜中・朝方まで箱詰めが続く時期もあるそうですが、8/5は18時頃で終了、本来この時期はもっと忙しくならなきゃとお話しされていました。
- ・今回の西部共選場ではライン外側に置かれた作業台での対応で、パレット積み的大量の桃の箱が大きなトラックに積み込まれたり、直売所に車が出入りする様子が視界に入り「繁忙期」を実感しました。
- ・人手不足で、ボランティア受け入れ対応もままならないようなお話しをお聞きしました。(以前にボランティア 時間でフェス等イベントチケットがもらえる対応で40名程を受け入れた時に、配置対応など苦労された との事でした)
- ・陽射しジリジリではなく比較的作業しやすい陽気でしたが湿度が高めで、桃の毛チクチクが少し気になりつつも、休憩時間に冷たい水と石けんでザバザバ腕と手を洗う瞬間がとても気持ち良かったです。
- ・土曜のみ日帰りさせていただきました。帰りの飯坂線は福島駅のお祭りに向かう地元の方々が激混みでしたが、お祭りウキウキのファミリーも多数で気分ほっこりしました。
- ・事務局の皆さま、現地で受入れ・送迎対応いただいた高橋様、大変お世話になりました。



福島桃西部共選所ボランティア参加報告 (2017/08/5~6)

総合運営本部

中央地連 並木 智子

J Aふくしま未来の西部共選場で桃の選果・箱詰めのお手伝い、3年ぶり2回目(伊達)に参加しました。この回の参加者は10名、2箇所(伊達・西部)に分かれて行いました。

西部共選場は福島駅から飯坂鉄道で20分桜水駅から車で10分ほど、この場所の参加は初めて。職員の高橋さんが昼食の買出や宿への送迎など 最盛期で多忙な中、大変お世話になりました。

<西部共選場>

8:30~12:00 農家から収穫された桃が納品される。納品された桃はその日のうちに全て出荷。農家ごとに光透過センサーで糖度と大きさを自動識別する。箱は2種類でサイズは95・105、ほぼロボット作業で【秀・特秀】をひとつひとつ丁寧にカップに吸着し箱にサイズごとに仕訳、機械で仕訳ができる小さなサイズは箱詰めも封印も自動でパレット積みされていく。重くてカップで受けられない大サイズ(13・15・16個:キャップかけ必要なサイズ)は高速で効率の良い機会キャップ装着を少し手作業でサポート、丁寧に瞬時にキズ・傷みのチェックをしてリズム良く向きを揃えて箱詰めしていく。美しく(向きを揃える)並べる事が重要。後々クレームになるそうです。

キズや傷みがある桃は直販所で袋入り販売かネクターとして、加工場へ運ばれるそうです。最新のシステム全体を見たかったのですが、ほぼキャップ装着エリアでの作業だったので、全体を見る事ができず、残念でした。

キャップ自動装着マシン:キャップがトイレットペーパーのように長く巻かれたもの。機械の2本の手で、代わる代わるキャップが自動で装着し手袋のように目前で開く。そこに手で桃を置き、少しプッシュ。リズム良くキャップかけをしていく。向かい合わせで2人で1つのマシンに入る。マシンは3台。手でかけるよりずっと早いのだとか。

初日は手がけで練習して、2日目はマシンで作業を行いました。気をつけることは、ヘタ側の当たりや商品としての傷、病気きず、柔らかすぎないか。など
末端価格は1個700円?にもなるのか。熊本・長崎便も毎日多くの注文があり、午前中に出荷翌朝には現地到着するのだそう。同じ「あかつき:天皇家へ献上される桃」色や大きさに違いがあり、農家さんのこだわりや枝の剪定や水遣りの時期など、職人技なのだそうです。高級料亭やレストランに送られる。特選。という種類もあり、大きく綺麗な桃を手にとると・・・やはり感動でした。

今年は5月に雨が少なかった為、大きな実にならない。農家によっては1日スプリンクラーで水遣りをして、大きく育ててきた。とのこと。水はほとんどの農家が川から引いて毎日撒く。水が多すぎても甘みが少なくなる。営農支援はなかなか難しいとのこと。
桃が終ると梨・りんご12月までの半年間使用、積もらないが降雪地帯だそうです。

<作業を終えて>

3年ブリの作業に参加。現場の方々がとても優しく見回ってくださり、大変楽しく作業させて頂きました。初めて西部へお手伝いという事もあり、不慣れなメンバーでも快く受け入れていただき、ありがとうございました。大切な高級桃に触れる作業、速さよりも丁寧さ。自分がこの箱の購入者になる。つもりで作業することが大切なんだ。と改めて感じました。初回参加の時は、機械に追われる作業だったな。と反省。この季節になると毎年、家族も親戚も楽しみにあかつきを頂いています。桃が好きすぎて・・・食べすぎか桃の触りすぎ?桃の産毛で被れ湿疹、治療中です。体力つけて産毛あれるぎーから脱出します!

福島、桃の共選所ボランティア参加報告（2017年8月5・6日）

ブランド戦略本部 開発管理部 堀 茂

8月5日(土)～6日(日)の2日間、JAふくしま未来 伊達共選場で、選果された桃を箱詰めするライン作業のボランティアに、昨年・一昨年に引き続き参加しました。

ちょうど、主力品種の“あかつき”が盛りとのことで、大勢の方々が働いていました。特に東京農大の学生など若い人が目立ったのが、これまでとは違いました。

共選場が異なると選果ラインの機械が違い、初めて見るタイプのラインでしたが、基本的には昨年と同じく、光センサーの選果機で糖度と大きさを判定し“特秀/秀/赤秀/青秀の20玉/25玉”というように、格付けを行い、コンベアーに乗せられた桃が、その格付けに応じた所に押し出されてくるので、それを箱詰めする作業でした。

1日目・2日目とも、比較的小玉のキャップ付けが必要ないラインに配置されました。贈答用として使用されるものなので、桃をただ箱に詰めればいいのではなく、桃の“すじ”の方向を揃え、また色もグラデーションにしなければいけません。“福島の桃”にかける思い入れ・ブランドを守るプライドを感じました。

当然、丁寧さだけでなく速さも求められます。他のラインと比べると忙しくない場所だったと思いますが、農家毎に偏りがあるのか、小玉が多い農家のときは、どどどと桃が自分のところに押し出されてきます。その時は、大急ぎで作業しても到底追いつかず、周りの人に何度も助けをいただきました。一方で、こちらが比較的余裕があり、隣のレーンが大変だった場合に、キャップ付けを習っていなかったために手伝うことができず、一方的に助けってもらってばかりで申し訳ないと思いました。

それにしても、こんなにたくさん人が働いているのに、遊んでいる人は誰もおらず、皆黙々と真面目に作業をしていたのが印象的でした。

1日目の夕食後、参加者で懇親をしました。飯坂温泉の街と美味しいものを堪能させていただきました。大変素敵なメンバーにも恵まれ、話にも花が咲きました。

また、2日目の作業終了後に、農家の方をご訪問させていただき、実際の桃の木を間近で見ることができ、生産者のお話をうかがうことができ良かったです。また、貴重な品種の桃をいただきました。

2日間足らずの作業で、自分が果たしてどこまで役に立ったのか、むしろ足を引っ張っていなかったかと、少し申し訳ない気持ちで福島を後にしました。

慣れない素人を快く受け入れていただき、ご指導いただいたJAふくしま未来の皆様には、この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。今年も、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

以上

ＪＡふくしま未来 共選場作業応援報告

地域・コミュニティー担当 宮地 毅

日時： 8月5日(土)～6日(日)
場所： ＪＡふくしま未来 伊達共選場
報告

【概要】

福島東稜高校など地元の高校生、東京農大の大学生、一般の方、日本生協連のボランティアという混成で箱詰めから出荷までの作業応援を行った。東京農大の大学生は宿泊費もＪＡ負担の上、アルバイトとして参加しているため給与ももらえると聞いた。応援者は全員で80人程度で、日本生協連からの6人は全員が箱詰めラインに入った。

1日の出荷量は8,000箱程度。丁度福島を代表する白桃「あかつき」の出荷のピークを迎え、味も一番おいしい時期とのこと。関西の桃と比べて果肉が少し硬く、しっかりした歯ごたえの桃だったと思う。みなさん2日後に接近する台風5号の動向を気にしておられた。

選果は光センサーでサイズと色と糖度で選別し、等級とサイズ別にラインで自動的に選別される。同じサイズにまとまって送られてくると作業台に桃が山積みになるため、作業者は指示に従って、あるいは自分で判断して桃のあふれたラインに移動する。キズや傷みは人間が判断するが、糖度だけは見た目では分からないらしい。この共選場のラインでは糖度8以下は出荷せず、糖度13以上が特秀、以下青秀、赤秀という等級になっていた。



【作業内容】

1日目は9:30に簡単な作業説明を受け、17:00の終了までひたすら桃の箱詰め作業に従事する。休憩時間は午前と午後に1回10分間ずつと昼食休憩1時間。作業が始まるとトイレ休憩を除いて2時間は動き続けのため、汗びっしょりになる。長袖は暑かったが、半袖になると腕に桃の産毛がついてチクチクするため少し気になった。学生の皆さんも終始黙々と働いており、今どきの若者もなかなかやるやん、と感心した。ただし、昼休みの休憩時間はまるで授業中のように机にうつぶせて寝ていた。さすがに暑い中での1週間の労働はしんどいのだろう。

ボランティアの終了予定は18時だったが、予定の作業が順調に進んだため、17時でお役御免になる。ＪＡの方も普通は20時までの作業らしいが、この日は19時に終わったと翌日に聞いた。2日目は8:30の朝礼から参加し、15時まで前日と同じ作業が続いた。

作業終了後はお土産に桃をいただき、近くの桃園に見学に来て行っていただいた。その桃園では「蟠桃」という珍しい平べったい桃を作っていた。生産者が極めて少ないため、著名人などの口にしか入らないらしい。6人中5人は初めて見る蟠桃に感激。それでもなかなか採算が取れないと



聞き、自然相手の農業の難しさを改めて感じた。

【感想】

作業自体は単純作業だが、コツをつかむまでに少し時間がかかり、1日目の午前中は戸惑うことが多かった。桃をつかむ時は少しでも力を入れると指の跡が残るため、やさしく扱う必要があるのだが、JAの方も思ったよりも手荒？に扱っているという印象だった。多分、あかつきが果肉のしっかりした桃だからだと思う。

2日間の短い応援だったが、JAふくしま未来の方には大変お世話になった。常に作業指示をしているベテランの女性の皆さんには作業上の指示や細かい注意をいただき、時に足を引っ張ることもあったと反省した。また、場長さんには生産者のご苦労話や今年の出荷状況、システムのお話などいろいろとお教えいただいた。それ以外にも駅から共選場までの送迎、弁当や宿泊間の手配、近隣の桃園への見学案内など、お忙しい中ご配慮いただき、本当にありがとうございました。

また、初日の夜には同宿の日本生協連の6人で夜の飯坂温泉に繰り出し、旧堀切邸を見学したり、足湯に入ったり、円盤餃子を食べたりすることができた。少しだけだが福島を知ることができ、楽しい仲間にも恵まれて楽しい2日間を過ごすことができたと思う。

歴史好きの自分としては、伊達氏の発祥の地であり、源義経に従った佐藤兄弟の墓のある飯坂の町をゆっくり歩きまわりたいと思ったが、またいつか来ることができれば、その時は47 があると聞く坂温泉の外湯めぐりもしてみたいと思う。



3年間の出向期間の中で、できれば年1回は東北支援に参加したいと思いながら、なかなか日程が合わず、結局、帰任間際になってやっと願いをかなえることができました。今回の企画に参加させていただいたことに心より感謝申し上げます。

以上

【日本生協連 笑顔とどけ隊】

ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア参加報告

2017年8月7日

事業支援本部 事業支援部 越後谷 道則

1. ボランティア概要

- (1) 期間：8月5日(土) ~8月6日(日)
- (2) 作業場所：JAふくしま未来 伊達共選場 福島県伊達市箱崎東 1
- (3) 参加者：伊達地区 伊達共選場チーム 6名
堀 茂(開発管理部)、宮地 毅(地域・コミュニティ担当)、越後谷 道則(事業支援部)、松田 千恵(事業企画部)、皆地 恵実(戦略商品開発室)、安藤 津矢子(業務管理部)、以上6名 印はリーダー
- (4) 作業時間：土曜 09:30~17:00、日曜 08:30~15:00
- (5) 作業内容：桃の選果ラインに入り、選果及び箱詰め作業(終日)

2. ボランティアに参加して

- (1) ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティアに参加するのは今回が初めてで、桃をダメにしないか不安を抱えながらの参加となりましたが、チームの半数の方が経験者でしたのでチームの方を頼りながら作業に入りました。



- (2) 今回の参加期間は福島の桃の最盛期で、扱った品種は「あかつき」(高い桃は触らせてもらえません) 初心者用に20玉と22玉の一番シンプルな箱詰め作業のラインが割り当てられ、最初にレクチャーが5分程あり、後はひたすら桃とにらめっこの2日間になりました。作業には波があり、入荷した果樹園ごとにサイズの偏りがあるようで、2日間ともに午前中は余裕がありましたが、暑くなってくる午後には入荷が増加し、あふれる桃と格闘している時間が長くなります。
- (3) 作業をしながら改めて感心したのは「桃の選果」、透過式光センサーを通過した桃は10種類以上あるラインに「特秀」「青秀」「赤秀」、そしてサイズごとに振り分けら

れて流れてきます。見た目は箱詰め作業の時に色目を見ながら人力で配置するのですが、機械の選別部分で安定した品質を提供していることがよくわかりました。

- (4) 最後に自分たちが箱詰めした桃をお土産? でいただきなぜか嬉しい気分になり、帰りには駅まで送っていただく途中に桃の生産農家にも立ち寄っていただきました。今まで見たことがなかった「蟠桃」(写真の桃です)、美味しそうな「ネクタリン」、もう少し時間がかかる「リンゴ」「洋ナシ」などが沢山実っている様子を見させていただき満足して帰途につきました。



- * 以前に訪れた時の飯坂温泉は寂れてしまっていて心配しましたが、今回訪問では、駅前のコンビニもリニューアルし、少し元気になってきて安心しました。観光も立派な復興支援なので、今度のはのんびりとお湯に浸かりに行きたいと思っています。



おまけですが、福島餃子も隠れた名物です。
福島駅前の「餃子の勝二郎」の餃子、なんと餃子5個で100円!!
但し、営業は17:00~です。

以上

福島桃選果場ボランティア参加報告（2017年8月5～6日）

松田 千恵（事業企画部 事業効率化推進グループ）

桃選果場でのボランティアについては、他のメンバーが的確な報告をすでに提出しておられ、私自身も2014年と昨年参加した際に作業内容等を報告しましたので、本報告では、当活動の今後に向けた意見を述べさせていただきます。当報告において求められている趣旨との齟齬について、冒頭でお詫びいたします。

“災害大国”日本は、次から次へと新しい被災地を抱える宿命を負っています。したがって、ボランティア活動においては、被災地を助けるというのではなく、「自立」に向けた歩みに寄り添い、支えていくという視点が不可欠だというのが、松田の基本的なスタンスです。

今回の参加については、このタイミングで被災地支援ボランティアをすることで、行き先はむしろ熊本や日田であるべきではないのかという自問も抱えつつ、名簿に名を連ねたという経過もありました。

現地で見聞してきたことから、現行形態での活動は今年限りとし、新たなステージを模索すべきではないかというのが、松田個人としての提案です。理由は以下のとおりです。

1. JAふくしま未来は、被災をほぼ克服されたようです。

現地でお聞きしてみたところ、桃の生産量は震災以前のレベルに戻り、需要もほぼ回復したということでした。

2014年に伺った折には、JAの方から「生産量が減っており、放射線汚染の風評もある。農家があきらめて果樹の植え替えをやめてしまえば、数年後には桃生産は瓦解する」という危惧をお聞きしました。それを思い起こし、よくここまで来られたなど、深い感慨を覚えました。半面、精神的な寄り添いも意識した“寄って集って”のお手伝いを、現地はもう必要としておられないとも感じました。

2. もっと相応しい労働力を確保しておられます。

私たちが行った週と翌週の2週間、東京農業大学の学生さん延べ200人ほどが1週間ずつの泊まり込みでアルバイトに来ていました。将来農業を職業とされる方も少なくないであろう若い人たちに1週間張り付いてもらえるのであれば、週末のわずか1日半ずつ入れ替わり立ち代りで作業に入る要領を得ないボランティアに出番はないと実感しました。

農大生は7月中は来てくれず手が足りないとはお聞きしましたが、その期間を埋めるにも、たとえば他の大学の農学部の学生にも募集をかけてみるなどのほうが、JAさんにとってベターな選択と思われます。

3. 消費者兼流通業者である生協として、“ならでは”の支援にさらに注力して いってはどうでしょうか

(1) 宅配の企画を通じた利用結集

現地から戻って広げた生協宅配事業の商品案内に、JAふくしま未来の桃が掲載されているのに気づきました。これまでも、箱売りの桃などの利用の呼びかけが行われていることは承知していますが、それに加えて、宅配での企画についても、利用結集の呼びかけを当該週の職員の掲示板に載せれば、より多くの日本生協連職員が気軽に参加できる支援になりそうです。

(2) 自然災害発生時の買い支え

帰り際に台風の接近が話題になり、JAの方が被害の発生を懸念しておられました。自然災害は避けがたいので、被害果やその加工品を生協が買い支える仕組みづくりをさらに拡充できるとよいなあと思いました。

(3) 消費者の視点からの商品づくりへのアドバイス

商品づくりへの適切な“手の掛けかた”についても、消費者の立場からアドバイスできるように思います。たとえば以下のようなことです。

お土産として頂戴した桃の箱を自宅で開けたところ、乱暴に持ち帰ったつもりはありませんでしたが、桃がクッションの上で転げ、筋の向きまで揃えて箱詰めした痕跡は消え失せていました。向きを揃える工程は、余分な労力と考えたほうがよさそうです。

今回お手伝いした伊達の選果場では、箱詰めする際に桃の色のグラデュエーションを強く意識しておられました。過去2回入った湯野の選果場では一度もお聞きしたことのないこだわりでした。グラデュエーションの完成度を上げるために、一度詰めた桃の一部を取り出して交換するように指示を受けたりもしました。加えて、作業中に桃の“お尻”の色に気を取られ、ヘタ側の傷みの確認が疎かになりがちでした。桃の色は生産者により異なっており、箱の中での色の濃淡よりも箱ごとのバラつきのほうが大きいという現実のなかで、桃の色の濃淡が消費者にどのように伝わるのか(伝わらないのか)、一考が必要ではないかと感じました。商品づくりのこだわりポイントは、消費者に重視される点をサーチしたうえで定められたほうがよいように思いました。

当然、異論もあろうかと思いますが、以上が今回のボランティア参加を経た松田の意見です。

JAふくしま未来 共選場作業応援報告

戦略商品開発室 皆地 恵実

日時： 8月5日(土)～6日(日)

場所： JAふくしま未来 伊達共選場

初めての参加で2日間、伊達共選場にはいりました。出荷のピークということでラインはフル稼働。挨拶もそこそこに作業ラインに入り、見よう見まねでソフトパックに並べたりネット掛け+箱詰めを行ったり。

ベテランのみなさんがてきぱきと教えてくださったおかげで何とか一つの作業ができるようになると他の作業ラインが忙しくなりそちらに回り、振り返ると先ほどのラインにも桃がどんどん流れてきて手一杯になり、「桃があふれる!」と思ったらどこからともなく手が伸びてきて箱詰め人数が増える、という、混合部隊の割にはかなりコミュニケーションのとれている作業場でした。

現場では福島が全国生産量の半分を占める「あかつき」という品種が主に流れていた。福島の桃の出荷は震災前ベースに戻り、需要も戻っているとのこと。ただ選果の人手がとにかく不足、地元の高校生だけでなく、東京農大まで出向いて学生をリクルート、1週間宿と食事つきで合宿アルバイトしてもらっているそうです。ちなみに福島の知り合いに聞いたところ、桃の選果バイトは高校生でも時給940円だとか。なかなか高給です。我々も先方の部長さんからも「大変助かっております、ありがとうございます」とご丁寧なごあいさつをいただきました。

二日目の帰路では珍しい桃の品種「蟠桃(ばんとう)」の木も見せていただきました。孫悟空が食べたといわれる幻の桃はこれらしいです。

なによりも同じチームの松田さん、越後谷さん、宮地さん、堀さん、安藤さんと一緒に事故もなく2日間の行程を終えることができましたことに感謝しています。事務局の方もありがとうございました。

(おまけ)伊達共選場でもまず幼果で放射能モニタリング調査を行い、熟果のサンプル検査はすべての農家必須。サンプル検査を通過した熟果しか出荷できないルールです。我々が訪問したときも放射能検査の受付を行っており、保谷の検査場に送るのだと伺いました。こういった話もたくさん持ち帰れたのが良かったです。

JAふくしま未来 共選場作業応援報告

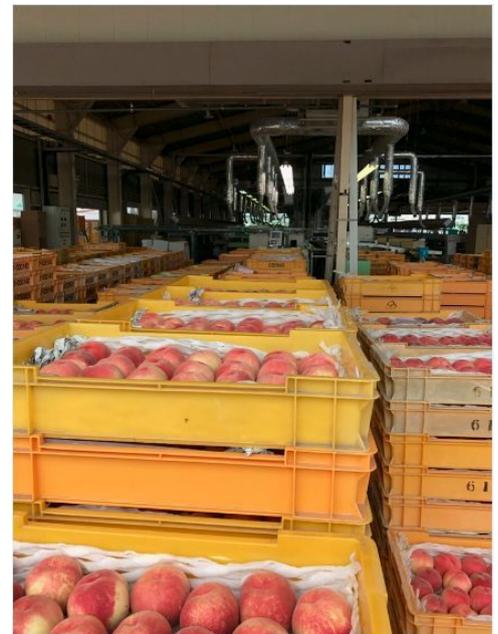
業務管理部 安藤

日程： 8月5日(土)～6日(日)

場所：JAふくしま未来 伊達共選場 (宿泊 飯坂温泉 湯乃屋旅館)

共選場作業応援への参加は2年目になります。今年も同じ伊達共選場に配属され桃の箱詰め作業をしました。

伊達の共選場での作業は糖度・大きさに選別されてレーンを流れてくる桃を出荷用の箱に詰めます。詰め方は大きく2つで、ひとつは小さめの桃を発泡スチロールのケースに並べる方法で、もうひとつは大きめの桃にキャップをかけて箱に並べる方法です。今回はケースに並べる作業を担当しました。収穫のピークということで、レーンには次から次へと桃が流れてきました。伊達の共選場には東京農大の学生や地元の高校生がバイトとして参加していました。昨年1週早く参加した際は、学生バイトは今回の1/3くらいしかいなかったのと比べると人数は充実していました。学生バイトは8/4以降からお盆前までの参加だそうで、今年は学生バイトの獲得のためにJAの方が大学に呼びかけたそうです。



学生さんは作業を2つとも取得していたので、レーンに桃が溜まる度に、すぐにそのレーンに桃が溢れてレーンから落ちないようにすばやく詰めていました。私は詰め方を1つしか取得してなかったので、別のレーンの桃が溜まって手伝いにいけず申し訳ない気持ちがありました。

夕方には、大きなトラックにぎっしりと箱詰めされた桃が詰まされており、達成感を感じました。

お宿も昨年と同じ飯坂温泉の湯乃屋でした。最上階に露天風呂があるお風呂の素敵な宿です。夕食後、皆で福島餃子を食べに温泉街を散策しました。お目当ての店「照井」は行列ができていて1時間待ちでしたが、待ち時間に旧堀切邸を見学しました。旧堀切邸は21時まで開いており無料で足湯が楽しめます。温泉街は外湯めぐりも名物で、入りはしませんでした。趣のある外観を眺めるだけでも楽しかったです。お目当ての「照井」の円盤餃子はしっかりとした味でかりっとした皮が美味しかったです。今度来るときはもう1点の円盤餃子のお店「ひたち」にも行ってみたいです。

昨年参加して、自分の力は微々たるもので受け入れてくれる方々はかえって手間がかかってしまっているのではないかと思います。でも、行くことをきっかけに、次の年はギフトを注文してみたり、福島が大宮から1時間ちょっとでいけることがわかったり、美味しいものがたくさんあることがわかったり、また行ってみたいと思ったり、福島に興味と愛着をもつようになるので、そのことが大事なのかなと思います。共選場の方が「震災前に比べて、収穫量も需要も戻ったけど、価格が戻らない。買わない人は絶対に買わない。」とお話されていたのが印象的でした。いつかは風評被害がなくなって買わない人がなくなってほしいですが、今は、買わない人の分も新たに興味をもった人が少しでも埋めていければいいなと思います。

おまけ...大量の桃に息子は大喜びでした。帰った直後は「来年は行っちゃダメ」と言っていたのですが、桃がなくなるころにはまた行っていいと言っていました。





【日本生協連 笑顔とどけ隊】

ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア

報告書

2017年8月14日 関西支所 大木菜々

1. 日程

期間：8月11日(金)～8月12日(土)

(1) 金曜 10:00～17:30

(2) 土曜 08:45～15:00

2. 作業場所

JAふくしま未来 西部共選場 福島市笹谷字吉原 37-1

3. 作業内容

(1) 11日(金)

10:00 ギフト箱作成から始まる。200個×3。桃にお目にかかりたい・・・

13:00 ギフト箱作成続き。組み立てスピード、半端じゃなく早くなった。

14:30 桃のキャップかけ+箱詰め。16個の詰め方は難しい・・・。夢に出てくるくらい桃を見つめていた・・・。

17:30 終了。足腰が・・・

(2) 12日(土)

8:45 ギフト箱へ住所シール貼り。前日組み立てたギフト箱! 300個くらい。

9時過ぎ 桃が箱詰めされたギフト箱のふたを閉める担当!

11時過ぎ ギフト終了。今度はスーパー用のパック詰め。

最初は、パック詰めされた桃をBOXへ入れる作業。

その後、パック詰め要員に。

15:00 終了。色々な事を経験しました。少しは力になれたかな?



次々と流れてくる桃

4. 感想

初めての作業内容、しかも繊細な桃を扱うということで、終始腕の筋肉が緊張していました。そして、終始立ちっぱなしの仕事は久々。結構つらかったですが、気温が低くて作業はし易かったです。おばちゃん達は、疲れた様子も見せず黙々と作業されていて、感嘆しました。また、桃のキャップ付けは皆さんが優しく教えてくださり、それなりの付け方が出来たかなと思います。

一緒にお仕事する中で、皆さんのプロ意識が感じ取れました。もちろん味は抜群だけど、見て美味しそうだな！と思えるように詰めてね。としょっちゅう言われました。

そして、桃も含めた福島の農産物は全て放射能検査をしてから出荷すること（家庭菜園の米とかも、検査しないと食べられない）を聞きました。また、糖度もしっかり測定しているから、他の県に比べて、より安全性と美味しさの保証があるんだよ、と前向きにお話されているのが印象的でした。

共選所の隣にある販売所に買いに来る方も多くいて、遠くから来られる方もいました。毎年ここで買っている、この味を知ったら他で食べられない、とおっしゃる方もいるそうです。たしかに、この固さと甘さはファンになります。来年は実家に送ろうと思いました。

ふくしま桃共選場ボランティア(2017/8/11-12)レポート

組合員サービスセンター 北森愛子

1. 作業内容

8/11(金) 箱作り(4人で600箱)

桃のキャップつけ・箱詰め

8/12(土) 桃の外箱にバーコードシールを貼る

2個入の桃をイフコに入れていく。各店舗に出荷できる状態にまでする。

桃のキャップつけ・2個入りに詰める

2. 感想

桃の出荷に関して様々な体験ができました。11日午前はダンボールの箱を組み立てていたのであまり作業に気を使わなかったのですが、午後からは一転、桃のキャップかけ&箱詰めではおそろおそろ桃に触っていました。同じサイズの箱に、桃の大きさによって15個詰めか16個詰めをするのですが、なかなか全て入らず難しかったです。ぼーっとしていると16個あるのに15個入りの並べ方をしてしまっ困るということもありました。

箱ごと買いに来ているお客さんもいました。

シール付け等、JAの規模にもよるとは思いますが、想像以上に手作業で行うものが多かったです。桃をまとめてイフコに入れていく作業は、やはり崩してはいけないと普段使わない筋肉を使ったので、前腕の筋肉が痛くなりました。桃が一気に流れてくるので、自分の判断でラインを止めることもありました。大量に積んであった空のイフコが無くなったときは驚きました。

共選場で働いている人も色々で、高校生くらいのバイトの子や宮城から引越してきて8月頭から働いている主婦の方もいました。皆さんとても仕事が早かったです。2時間や3時間じっと立っているのが足が痛くなったのですが、皆さん手を止めることなくもくもくと進めていらっしゃいました。

二日間比較的涼しい気候の中で作業が出来たので助かりました。JAとしては、桃が濡れるとすぐ膨らんでしまい、傷みやすくなってしまいうのでこの時期の雨は全く有難くないそうです。

JAの方にはお忙しい中ご対応いただきました。ありがとうございました。

8/11-12 笑顔届け隊 桃共選場支援レポート

ロジスティクス本部コープE C Rセンター 坂本

作業内容

1 日目(10-17 : 30)	桃の外箱組み立て、キャップ付けと桃の箱詰め
2 日目(8 : 30-15)	外箱のシール貼り、キャップ付けと桃の箱詰め

感想

印象に残っていることはまず「JAで働く方々の意識の高さに驚いたということです。桃のキャップ付けと箱詰めの仕方を教えていただいた後、作業に入らせていただきました。私はうまくできず、桃の向きを揃えられませんでした。(大きさ・形の違う桃を一定の大きさの箱に同じ数で詰めていくのは思っているより難しく、神経を使う作業でした。)その中で現場で働く方から「自分がどんな風に並べられていたら買いたいと思うか、おいしそうだなあと思うか考えて詰めていくんだよ。」と教えていただきました。ピークが過ぎたとはいえ、今まで見たこともない量の桃がありました。時間も決まっており、スピードが求められますし、ルーチン作業でもあります。しかし一つ一つを大切に扱っているということが、一緒に作業をさせていただく中で強く感じられました。また「夏は暑く体力的にもしんどいが、ここで詰めた桃は大阪にもいって、遠くの人たちに喜んでもらえると思っただらすごくうれしい。仕事が楽しい。」と仰っていました。自身の仕事に誇りを持って働く姿に刺激を受けました。震災で避難中の方も桃の時期には車で福島まで来て何箱分も購入する様子も見られ、多くの人の楽しみになっていることを実感できました。

私は2年間コープこうべ出向で地域担当と店舗(農産部門も経験)で働きました。組合員さんに届けることは経験させていただきましたが、その前の部分はあまり関わりがなく、知りたいという気持ちで今回参加させていただきました。2日間という短い時間ですが、「JAで働く方のことを知ることができ、出向中に経験していれば商品に対する思いや扱い方がもっと違ったかもしれないと感じました。

今回同じ共選場でボランティアしたメンバーは様々な部署から集まりました。そのため、普段どんな業務をしているのかを話したりで、楽しかったです。他部署の仕事を知る機会がめったにないため有意義な時間となりました。(COMベースや基幹システムの使い方を教えてもらったりもしました)今後もこういった場に参加して日本生協連内部でのつながりも増やしていきたいと感じました。ありがとうございました。



【笑顔とどけ隊】桃共選場ボランティアに参加して（8/11-12、西部共選場）

コープ ECR センター 佐田真朗

今回で3回目の桃の選別作業となりました。今回は雨が続いたことなどもあって、極端なピークはなかったとのことでした。訪問時の入荷量も少なかったようです。昨年までとは違う共選場で、はじめての作業もあり新鮮でした。

1日目は曇、前日までの雨もやんで過ごしやすい陽気でした。待ち合わせの桜水駅でJAの方にピックアップしていただき、共選場へ。

まずはギフト用の段ボールを広げて組み立てる作業からスタートしました。昼休みを挟んで午後には終了しました。

その後はキャップかけして箱詰めをおこなう作業となりました。ラインから運ばれてきた桃にキャップをかけて段ボールに詰める作業ですが、13個から16個まで大きさにより詰め方が変わり、特に16個は斜めに要領よくつめないたと最後に入らなくなるため、最初は難儀しました。一緒に作業していただいた方に教えていたできながら、なんとかできるようになりました。1日目の作業開始は、桃の入荷が少なかったのか17:30で終了となりました。

2日目は、パッケージラインで昨日組み立てた箱に桃を詰めていく作業となりました。6個ずつ箱につめ、バンドをかけてパレットに積みつけるという作業でした。その後、午後の終了時間（15:00まで）量販店用に2個パックをつくりコンテナに詰めをおこなう作業となりました。自分は詰められた箱をパレットの積み付ける作業の担当となりました。迅速な動作が要求される、適度な全身運動でした。このところ、いかに立ち仕事に慣れていないかがよくわかります。

作業で困ったことなどがあると、回りの作業員の方が丁寧に教えてもらえました。みなさんとても良い方でほっとします。毎回慣れたころに終わってしまうのが、心残りだったりします。作業終了後、お土産に桃をいただき、駅まで送っていただきました。

昼食は事務所でとらせてもらい、休憩もさせてもらいました。休憩室もあり、地元の方と話に盛り上がったメンバーもいました。

共選場のまわりには店はなく、昼食は1日目は近くのコンビニまで送ってもらって調達しました。2日目は宿のそば（徒歩5分ほど）のコンビニで用意しました。JAの担当者の方は多忙なため、すべて自前で用意しておいたほうがよかったように思いました。

宿は、免許センターの利用者向けのもので、町の民宿といった感じのところでした。浴衣、ハブラシ、タオルなどはなく、シンプルな民宿といった感じでした。

終了後に伊達チームと合同で有志によるご苦労様会をおこないました。共選場による作業の違いや宿の違いなど、円盤餃子をたのしみながら、ふりかえりました。

以上

ふくしま桃共選場支援ボランティア感想文

2017年8月14日

共同開発推進部 上垣

JAふくしま未来の伊達共選果ボランティアで8月11日～12日お世話になりました。今回3回目(だと思う)ですが、いつも伊達共選場にお世話になっています。作業は昨年はダンボールのパレット積みでしたが、今年はあかつき特秀20玉の箱詰めでした。

ダンボールの手前に等級表示ラベルを貼り、手前に色の薄い桃、向こう側に色濃い桃を置く。溝は手前にきれいに並ぶように。現場の班長さんに教わり、詰めていきました。最初の6箱くらいは班長さんの点検チェックを受け、「次第に慣れてきたねー。呼ばなくても良いよ。」と言われてからは自分の判断で箱詰めしていきました。

コンベアに流れてくる時はどんどん来るので箱詰めが間に合わず、溢れかえる状況になった時は班長さんや学生バイトのみんなが同一ラインの前後に入り、フォローしてくれました。あうんの呼吸でスムーズ。みんなあまりしゃべらない人ばかり(2日間しかいないし、話しかけづらいよねー)でしたが、作業はお互いの動きを見てきっちりやれていました。そうした面では特にストレスもなく、作業出来ました。

桃収穫・出荷動向ですが、8/初旬がピークであり、8/11～12日も量的に下り坂とのこと。1日目は10時頃～16時頃まで(コンテナ5,000枚で箱7,500出し)。2日目は9時頃～15時頃まで。これは我々だけでなく、共選場全体の作業(地元作業の方、大学生バイトなども)がこの時間で終了でした。品種的には市場価格の高いあかつきがピークを過ぎ、若干まとかなども出てはいますが、各農家とも朝運んでくるコンテナは枚数多くありませんでした。

ただし、8月4日～12日と9日間アルバイトで貼り付いていた東京農大学生(延べ170名)が作業終了。我々は農大生と一緒に作業で恵まれていたかも知れません。

福島も例年蒸し暑い夏ですが、我々作業期間は25～28 前後ではなかったかと思います。1日目曇り、2日目は雨のち曇り。2日目午後で雨 上がってから蒸し暑い感じが少しありましたが、「汗だらだら」はありませんでした。

作業は箱詰めのみをした方とフルーツキャップをかける作業までした方とそれぞれでした。2ライン×2名で分かれて作業しました。

JAのご担当者はセンター長の長沢さんで、伊達駅送迎対応してくださいました。宿と共選場との送迎は宿のバスでした(共選場から宿まで15分程度)。

風呂や送迎バスの中で会う東京農大学生も殆どは挨拶も気持ちよく、良い印象でした。地元の方々(高校生バイト含め)もみんな良い方々ばかりです(いつもそう思います)。昨年は福島工業高校の学生が懇切丁寧にパレット積みつけを教えてくださいました。短い間ですが、一緒にそうした交流・経験が出来ることが財産だと思います。本年もたった2日間でしたが、いろんな方々と一緒に作業出来て良かったです。また今年も良い経験が出来ました。

2017年8月28日

【笑顔とどけ隊】ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア

ブランドコミュニケーション推進部

小林 真莉

1. 【当日の概要】

JAふくしま未来から、桃の最盛期にあたりJA共選場（桃を集荷し、それを一定の規格に仕分け・包装加工する作業場）の作業ボランティアの要請があり、8月11日（金）～8月12日（土）の日程で参加させていただきました。

当日は、福島地区の西部共選場チーム（4名）と伊達地区の伊達共選場チーム（4名）に分かれて作業を行いました。

伊達共選場の作業時間は、1日目9：30～16：00、2日目9：00～15：00でした。桃の入数が少なかったため、両日予定よりも早く終了となりました。東京農大生の共選場作業アルバイトと同じバスでの移動でしたので、2日目の朝は7：30にホテルを出発し、1時間以上の待機時間がありました。

作業日の天候は、両日ともに曇天の25度前後とほとんど汗をかくことのない快適なコンディションでした（スポットクーラーが当たると寒いので長袖での作業でも十分可能です）。桃が流れてくる規格ラインへ移動し続けなければならないので、やはり動きやすい服装が良いと感じました。



私が行った作業内容は、要請通りの内容でした。従業員の方、機械センサーが規格に振り分けた桃にフルーツキャップを被せ、箱に詰める作業をさせていただきました。

2. 【気づき・感想】

共選場は機械が多く導入されているが、作業はとても人手が必要で大変なのだと今回参加させていただいて改めて感じました。

共選作業は単純なものでしたが、購入者が箱を開ける状態そのものを作る作業で、今後も購入していただけるか印象付けしてしまう一つの要因になるので、とても繊細かつ重要なことだと思いました。

2日間という短い期間しかお手伝いできませんでしたが、お世話になりました。ありがとうございました。



8/11-12 桃共選場支援レポート

株式会社コープクリーン
お客様相談室 片野浩克

お盆前の 8/11-8/12、福島県の桃選果ボランティアに初参加しました。
伊達駅集合時間が 9:10 と早いので、大宮駅 7:38 発の新幹線。遅れないように気をつけました。

この週末のボランティア参加者は、西部共選場チーム 4 名・伊達共選場チーム 4 名の計 8 名なので、前週までと比べてやや少人数。桃が当日どの位届くのかは、行ってみないと分かりません。この日は（翌日も）桃の収穫持込みが前週までより少ないようで、山積み状態ではありませんでしたが、それでもコンベアがまわり始めると次々と桃が流れてきます。

最初にサイズや糖度を読み取り、自動仕分けするセンサーを簡単に説明いただいてから選果ラインへ配属。私が担当したのは「特秀」の 8 玉や 15 玉など。桃のサイズはセンサーで分けられて、8 玉サイズや 15 玉サイズの桃が来るので、色やキズを目視確認して、決まったルールに沿って箱詰めしていきます。桃の向きがずれていたり、色分けがあまり出来てないとベテランさんからご注意も。「特秀」は売価も高い箱なので、見栄えのよさも重視されます。

そして、桃のサイズや糖度等はどこの農家から入ったものかかなり傾向があるため、自分の担当テーブルにぱったりと桃が来なくなったり、息つくまもなく次々と来たりとムラが多いので大変。次々と自テーブルに来る状態を、「フィーバー来た！」と勝手に思っていました。2 日間立ち仕事でちょっと腰にきますが、なかなかやりがいがあるボランティアでした。



私が選果した「あかつき 特秀 8 玉」です。なかなか美味しそうですね？（^ ^）

ふくしま桃共選場(伊達地区 伊達共撰場) 作業支援 報告

品質保証部

八反田 誠

長沢センター長をはじめ、JAふくしま未来の方々にはお世話になりました。ありがとうございました。

1. 取り組み期間

2017年8月11日～12日

2. 伊達地区 伊達共撰場支援の参加者(敬称略)

上垣(共同開発推進部)/片野(コープクリーン)/
小林(ブランドコミュニケーション推進部)、八反田

3. 天候

11日曇り、12日小雨のち曇り/気温は25～26で、暑さを感じない状況でした。

4. 作業の状況

・2人ずつにAライン、Bラインに分かれての作業で、Bラインを担当しました。こちらは、主銘柄のあかつきの他、まどか、フレーバートップの切り替えあったラインです。はじめは箱詰めのみでしたが、フルーツキャップをかける作業も担当しました。フルーツキャップは少々コツはいるものの、慣れればなんとかできます。ただ、個数が多い箱では、方向を合わせてきれいに並べるのはなかなか難しかったです。班長さんの的確な指導で何とかこなせたというところ。最初のころ、少し美しくない並びの箱が出来たかもしれませんが、ご容赦いただきたいと思います。それにしても、東京農大の学生さんたちは、作業9日目ということもありますが、とってもテキパキしていて教えてもらいました。感謝。

・2日目午後の15玉ラインは、ブースに桃があふれそうになりました。フォローに2人が入っても次から次へと選別されてくるので、とてもいそがしい思いをしました。2日目なのでそれなりに作業に慣れていたのが幸いでしたが、少々腰が痛くなる感じでした。それでも、全体の量は少なく、2日目の15時には作業終了となりました。収穫のピークは前の週だったようです。

5. 作業場の状況

・品質管理の視点でみると、共撰場は、入荷口、出荷口ともオープンで、手洗いもなく作業に入ることや帽子が三角巾を頭にするレベルなので、食品工場としてみればどうかという点はあります。ただ、桃を選別して、自動振り分け、箱詰め、出荷という作業から見てリスクは想定しにくいと思われます。それに、作業現場は、オープンなのにもかかわらず、虫が非常に少ない状況でした。中国の白桃缶工場で皮むき工程があったこともあるが、ハエが群がっていたことと比較して、この点は良い点でした。



ラインを説明していただいた
長沢センター長(右端)



桃の集荷



桃の選別



透過型光センサー



箱詰めライン

・桃の品質管理として、目視選別でラインに乗せる判断がまず重要ポイントです。この工程管理は見ていないので選別率はどの程度わかりませんが、選別された桃は、ジュースの加工原料になるとのこと。それと透過式光センサーによる糖度測定、サイズの自動読み取り、そして連動する仕分けラインがありました。このラインでは桃を転がすこともなく、箱詰めラインまで振り分けられるのは、桃に傷をつけない配慮がされている構造でした。

・このラインは、桃とりんごの時期だけ稼働するラインとのこと。これは果実選別専用ラインであることとこの地区で対象品が限定されているのでやむを得ないのではありませんが、季節限定であるが故のラインの保守点検は、重要と思われま。今回はここまでは確認できませんでした。



箱詰め



出荷

6. 所感

・初めての参加でした。日頃はデスクワークなので、身体を使う作業は新鮮でした。それにしても、自分の不器用さにはいやになるところでしたが、何とかやれたかなというところでした。農業についてはGAPなどいろいろかわることがあるのですが、書面ばかりなのでやはり現場を一部とはいえ見ることは有意義でした。できれば、栽培もいろいろ聞けると良かったのですが、ボランティアではやむを得ないところでした。

宿泊が、飯坂温泉だったのがよかったです。温泉ホテルでしたし、屋上露天風呂のオープンなところがなかなか。夕食はなんともいえないレベルではありましたが、その分温泉街(?)の円盤餃子は美味しかったです。鯖湖湯の熱さはすごかったです。堪能できました。やはり温泉だといいです。



共同浴場 鯖湖湯



名物 円盤餃子

以上

2017年ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア報告

ブランド戦略本部 マーケティング部

内田実智子

【全体概要】

- ・日程 2017年8月19日(土)～20日(日)
- ・場所 西部共選場(福島市笹谷字吉原37-1)
- ・今回は3回目の参加。高校総体の関係で当初予定していた湯野共選場ではなく、西部共選場となった、初めての場所。

【作業概要】

- ・初日は入荷量が少ないとのことで、到着後(10時前頃)～16時ごろまで、段ボールの組み立て作業を行った。その後、湯野共選場から2千パレットほどが横持ちされてきたため、桃のキャップかけ&箱詰め作業を行った。サイズは13玉または15玉の2種類。
- ・2日目は終日、桃のキャップかけ&箱詰め作業を引き続き実施。西部共選場は省力化が進んでおり、入荷時の選果後は、サイズごとに必要な玉数が段ボール箱に入れられてベルトコンベアで出口に運ばれる。出口で、段ボール箱に入れられた桃の一つ一つの傷みなどを確認しながらキャップかけ&箱詰めを行う。ライン内にはほとんど人がおらず、最後のところに人員を集中して各サイズを同時に一か所で箱詰めする仕組み。



この状態の段ボールを、折り、突起をはめ込んで段ボール箱の形に。

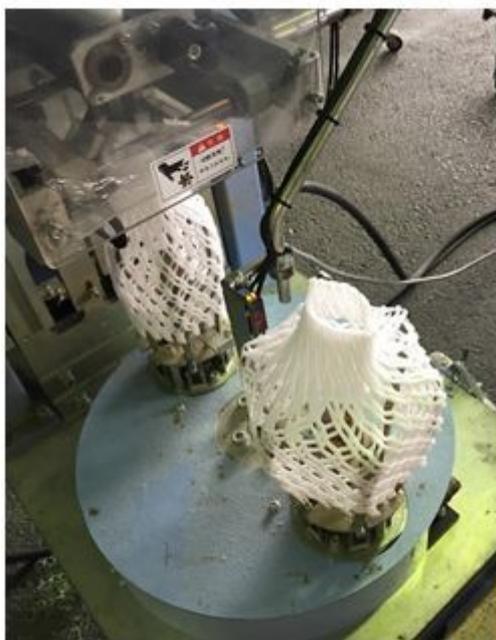


完成形。主に、直売所などでの持ち帰り用の桃を詰める箱。

桃が詰められた状態。



キャップ掛けは、このような機械を使ってかけるラインがあり、省力化。上から桃を置くと盤が回転し、新たにキャップが支給される装置。



【感想】

今回3回目の参加だったが、共選場によって箱詰めやり方が異なっているようで興味深かった。なるべく省力化するような仕組みが導入されている模様。とはいえ、やはり最後キャップをかけて箱詰めする作業は人手となるため、多少でもお役に立てて良かった。

ただし、時期的に入荷が少ないタイミングということもあり、次年度はもう少しピーク時に参加したいと思う。受け入れて下さったJAの皆様及び、慣れない中年？ボランティア集団に嫌な顔せず丁寧に指導して下さいました。

2017年8月23日

ふくしま桃共選場ボランティア参加報告

商品本部 本部スタッフ
高畠 展子

【1】 参加日程 8/19～20(2日間)

【2】 作業場所 JAふくしま未来 西部共選場 福島市笹谷字吉原 37-1

【3】 作業内容

桃の外箱作成

4人チームで、約5パレット作成(1パレットあたり約280個)

用意された段ボールを4人で、力をあわせて5パレット分を作成。単純作業ではありましたが、達成感がありました。

桃のキャップかけ

原料の入荷状況等により、キャップ掛け用の桃原料の作業量が時間単位で変動。

初日は、付近の産地から原料が転送される16時以降がピーク。

2日目は、一部機械化された包装ラインで作業しましたが、小柄な女性用に高さが設定されていたことから、作業がしにくく感じる時がありました。現地の作業の方と二人で作業をしましたが、相手の方も機械化された包装ラインは初めてということで、通常作業されている方との包装ラインへの力のかけ方等の違いの影響か、実質の作業約4時間のうち4回ほどうまく作動しない、キャップ包装形態不良などの不具合が発生。パイパー時代、何度か包装ラインのトラブル等を経験しましたが、桃の包装ライン自体、非常にシンプルな構造であったにもかかわらず、不具合が発生したことから、改めてデリケートな工程なのだと感じました。

【4】 感想

貴重な経験をさせていただきました。

昨年4月よりコープこうべより出向させていただいています。関西では、岡山の桃が中心で、福島の桃を食べる機会も首都圏と比較すると少ない状況でした。今回、参加させていただいて、桃の品種、集荷から選別、箱詰めの流れがわかり、非常に勉強になりました。たまたま今回は、涼しく、作業しやすい環境でしたが、気温が高い中では、大変な作業だとも感じました。生産者の方が収穫した原料を共選場などの拠点に納品、原料をサイズ選別し、人海戦術で箱詰めするという一連の作業は、農産分野ならでは、今後一層機械化が進む部分もあるとは思いますが、桃のようなデリケートな果物については、今後も変わらない風景だと思います。今後は福島の桃を食べるとき、この経験を思い出しながら大切に食べたいと思います。

以上

ふくしま桃共選場ボランティア 8/19-20 報告

営業本部 中央第2支所

坂本容子

実施日 2017年8月19日～20日

作業場所 JAふくしま未来 西部共選場

作業内容 桃箱（段ボール）の組み立て、桃のキャップ掛けと箱詰め

感想

2度目の参加です。昨年とは選果場の場所も違い、作業のやり方なども多少違いがありました。夏場なのに非常に涼しい気候と、ピーク時を過ぎており多大な物量ではなかったこともあり、比較的快適に作業することができました。

最初はそんなに桃の量がなかったため、桃箱（段ボール）の組み立てから行いました。2グループにわけそれぞれ大きさの違う箱を組み立てました。慣れてくるとチームワーク良く、効率良くできるようになり午前中が終わるころには大量の段ボール箱が出来上がり達成感がありました。

次に桃のキャップ掛けと箱詰めです。実際桃に触れる作業はやはりテンションが上がります。昨年もそうでしたが、等級やサイズで分けられている細やかさに感心しました。決められた個数が入った段ボールがどんどん運ばれてくるので、サイズにあったキャップをかけ、箱の中に並べていきます。きちんと向きをそろえてきれいに入れないと市場やスーパーなどからクレームが入るので、早さよりも丁寧にと伺い、とても大事に扱われていると改めて感じました。作業は慣れてくるとテンポよくできるようになりましたが、熟練のお母さん方には敵いません。だんだん疲れてくるので、休憩の時間を今か今かと待ちながらひたすら箱詰めに没頭しました。また現地の方々、同行した職員も初めてお会いする方もいましたが一緒に作業することで楽しく交流することができました。

桃選果場の作業はあまりリアルに震災と向き合う、という内容ではありませんが、震災からずっと、何かしたいけどひとりではなかなかできない・・・と思っていたところにこのような取り組みがあったことで参加してみようと思えることができました。被災者の方のお手伝いや震災被害があった場所の視察などにはまだ行けていませんで、今後はまた別のボランティアにも参加してみたいと思います。

JAふくしまの皆様、この企画を立案・お世話いただいた皆様、ありがとうございました。ぜひ、来年も参加したいと思います。

ふくしま桃共選場ボランティア報告（8月19、20日）

広報部出版 G 富岡美和子

桃共選場ボランティアは今回で3回目、今年は西部共選場に伺いました。

1日目：「福島のかだもの」とロゴの入った段ボールを組み立てました。桃の入荷量はそれほど多くないようで、「やはりお盆のピーク時に伺わなくてはあまりお役立ちできないのか……」と思っていたところ午後には他の共選場から大量搬入。段ボール要員も集まって、桃にキャップを付けて箱詰めする作業を15時頃から行いました。

2日目：桃にキャップを付けて箱詰めする作業を行い、キャップを自動でかける機械を使わせていただきました。二人一組で、交互に機械の上に桃をのせていくので、相手のリズムを乱さないよう一定のタイミングで桃を置き、キャップをかけた桃を瞬時に取り上げて素早く箱に詰めなくてはならないのでやや緊張。一緒に作業した方は地元の方で、西部共選場で作業するのはまだ3日目とのこと。少し傷んでいるかな？ という桃について自分で判断しかねる時、この方に尋ねると「これは微妙……。職員でもこのくらいの場合がいいと言う人とダメという人がいる。でも自分が買ってこれが入っていたら嫌だなと私は思うから、これはよけておきましょう」とおっしゃり、やはり「自分だったら買うか」という視点は大事。少しの傷みで「傷物」に回され、値段が下がってしまうことは生産者を思えば心が痛むものの、贈答品は決して安くない値付け。厳しい判断がブランドを守るのでしょうか。ようやくキャップ付け機械になじんだところでタイムアップ、毎度のことながら山積みの作業を残して帰るのは気が引けました。2日目も、できれば17時くらいまで作業して帰りたいなと思います。

その他

段ボールを組み立てるより、桃をさわれる作業のほうが何十倍も楽しい。初日、「このまま段ボールで1日終わってしまうのか……」と思っていたのですが、最後に桃作業ができて、やわらかくいい香りの“生もの”に触れることに、ちょっとびっくりするくらい喜びがありました。

（次回あれば）段ボール作業用に軍手を持参することをおすすめします。

今回も他部署の方々と交流ができて、とても楽しい2日間でした。

お世話になったJAふくしま未来の皆様、ありがとうございました。

頂戴しました美味しいお土産に加え、直売所で買って帰った「まどか」を思う存分食べ、今年も福島の桃を愛でることができました。

ボランティア活動報告（日本生協連 笑顔とどけ隊 福島桃共選場支援）

コープ共済連 人事企画部
小島啓志

活動場所：JAふくしま未来 西部共選場

活動期間：2017年8月19日～20日

活動内容：1日目 段ボール箱作成、キャップ掛け
2日目 キャップ掛け

1. 参加の動機

2年前にも共選場支援に参加しましたが、その時は8月第4週で桃の生産はすでに終了していてリンゴのラインに入りました。初めてでしたがとても爽やかな経験ができ、今回も参加しようと思いました。

2. 作業の内容

初日の段ボール箱を折って組み立てる作業は単純ですが奥の深いものでした。段ボールの爪を折って穴に差し込むのですが、午前中で握力がなくなってしまいました。

午後になり、よくよく見ると穴の一方に小さな切れ込みがあり、軽くたたいてはめられることが分かりました。効率は上がったのですが、作業量が増えて体力的にはきつくなりました。

他の共選場からの横持ち原料が入ったことで、キャップ掛け（箱詰め作業）に移ることができたときは、正直ホッとしました。

キャップ掛けの作業は10分もすると要領をつかめるのですが、箱詰めはギュウギュウなので果肉がつぶれないかと不安に思うものでした。初日の最後は選果ラインの方も加わってお祭り騒ぎでした。

2日目の作業前、桃の並びを若干でも（1～2ミリ）ずらすことで入りやすくなること書かれた手順書を見てようやくコツが分かりました。さらに昼休み、直売所で試食を食べて果肉のかたい品種であることもわかって一層安心をしました。



3. 皆さんに伝えたいこと

ボランティアは収入を得るために働くのではありません。何のために筋肉痛になるのか、なぜ自分はこんな経験をしているのか、やってみた人は各自が答えを持っています。震災から年月がたち、ボランティアに参加する人は減ってきているそうです。被災地に笑顔を広げる活動に、これまで参加したことがない方も参加してみませんか。

笑顔とどけ隊：ふくしま桃共選場ボランティア 活動報告



コープ共済連
関西地区推進部第1グループ
青木 覚

(1) 活動概要

8月19日～8月20日にかけてJAふくしま未来西部共選場様にて桃(まどか)の出荷作業をさせていただきました。

(2) 作業内容

1日目は主に果実梱包用の段ボールの組み立てをさせていただきました。組み立てやすいように予め折り目がついており、力を入れずとも組み立てができるようになっています。後半は、30秒に1個の完成を目標にドンドン組み立てを行いました。自分の組み立てた箱にどんな果物が入って各地へ出荷されるのか想像しながらメンバー全員で作業を行いました。

2日目は桃の箱詰め作業を行わせていただきました。桃にキャップをつけて綺麗に箱詰めするにはコツが必要でした。また、ベルトコンベアから流れてくる桃の入った箱を、出荷作業を行うメンバーへ分配する役割も担わせていただき、生産者と農協の方々の桃への想いを感じながら仕事をさせていただきました。

(3) 感想

今回で3回目の共選場ボランティアとなりました。毎回携わらせていただく仕事が変わるため、共選場の様々な風景を拝見させていただきました。しかし、仕事が変わっても思い出す言葉があります。それは「桃をキレイな状態で全国へ出荷するために、私たちは生産者以上に桃を大切に扱わなくてはならない」という共選場職員の方の言葉です。そのため、キャップ1つをかける時も、桃を同じ方向で箱詰めする時も、出来るだけ桃に触れる回数が少なくなるように気持ちを込めて仕事をしました。作業の1つ1つは、ベテラン職員の皆さまの職人技には遠く及ばずご迷惑をたくさんお掛けいたしました。福島の「今」と桃の美味しさ関西へ持ち帰り、職場メンバーと共有できる一人となることができました。

関東から関西へ転勤となり感じることは、東日本大震災への温度感の違いです。距離はかなり離れていますが、農協様と生協を通じて、お互いの関心ができるだけ近づけるように、微力ながら今後も活動支援を行っていきたいと思います。

福島の皆さまの笑顔と心からのおもてなしに感謝いたします。ありがとうございました。

ふくしま桃共選場ボランティア 8/19-20 報告

商品本部 日配商品部
松井洋一

実施日 2017年8月19日～20日

作業場所 JAふくしま未来 西部共選場

作業内容 桃箱（段ボール）の組み立て、桃のキャップ掛け、流れてくる箱をキャップ掛け作業台へ運ぶ作業をしました。

作業感想

ピーク時を過ぎていたようなので、多大な物量ではなく、強烈な忙しさの中での支援ではありませんでした。

構内の作業者は、JA職員、パート、派遣、応援に駆け付けた家族、研修生、私たちのようなボランティアと多彩な構成で、最初はそれが理解できず、誰に作業の相談をすれば良いのかがわからず、少し困りました。

桃箱（段ボール）の組み立て作業は4人チームでサクサク進行。どうすれば段取り良く作業できるかを考えながら動くことが楽しく感じました。

桃のキャップ掛けは、箱に入った桃を取り出してキャップを掛け、仕上工程へ流す作業でした。桃は思ったより固く、強く握っても潰れないので作業はしやすかったです。



二日目は、流れてくる箱をキャップ掛け作業台へ運ぶ作業をしました。箱は重くないのですが、持ち上げる高さが微妙に高く、腰が痛くなる作業でした。どこに箱を運ぶかによって作業効率が変わるので、進捗状況を見ながら最適な場所へ運ぶようにしました。なかなか疲れる作業で昼休憩で、座ったまま爆睡してしまいました。（同チームの

Sさんが証拠写真を激写していました・・・）

最後に

昨年は「福島を見て、知るツアー」に参加して、震災・原発事故について学び、放射能影響で復興が進まない現状がよくわかりました。何かお役に立てればと、今回のボランティアに参加しました。自然あふれる場所で、かんかん照りでない涼しい気候での作業だったので、心地よい汗をかき、充実した2日間でした。現地の方々、同行した職員と交流もでき、楽しい時間でした。JAふくしまの皆様、この企画を立案・お世話いただいた皆様へ感謝いたします。ぜひ、来年も参加したいと思います。ありがとうございました。

<笑顔とどけ隊> 桃共選場活動参加報告 (2017/8/19~20)

ブランド戦略本部 開発管理部 渡辺 匡

<活動内容>

8/19(土) 9:30 「桜水駅」集合 JA の方にピックアップいただき、JAふくしま未来 西部共選場着、作業開始 18:00 頃作業終了

8/20(日) 8:45 頃共選場着、作業開始 15:00 頃作業終了 帰京

作業内容 桃を梱包する段ボール折り、桃のキャッピング

これまで笑顔届け隊の活動では、田老地区への支援には何度か参加させていただきましたが、桃が大好きで、商品担当時代も桃好きが興じて桃のジャムを開発してしまったほど、桃大好きという個人的理由で今回参加させていただきました。

初めての参加であったということ、過去の参加者の方からもあまり事前に情報収集をしていなかったのも、どんなお手伝いができるのか全く想像もつきませんでした。今回支援させていただいた内容は、桃を詰める段ボール折り、サイズ選別された桃に保護用キャップを被せ、最終商品としてキレイに箱詰めするというものでした。

段ボール折りは単純な作業のため、コツを掴めばあとは黙々と目の前の未成型の段ボールの山との戦いでしたが、桃のキャッピング 箱詰めは最終商品になるということ、桃は高級品でデリケートな果物であるという事からかなりおっかなびっくり作業をしていました。こちらも1日目が終わる頃には慣れました。

一緒に作業をしていた坂本さんなどはどんどん作業が上達し、近所のおばちゃんたちに混じっても遜色の無さそうな活躍ぶりでした。

どこまでお役に立てたかはわかりませんが、大好きな桃に囲まれ、一日中体を動かしての作業は充実感・達成感もあり、日頃、事務所でデスクワークに追われている自分にとっては新鮮で、楽しいボランティアでした。また、同じ日本生協連(コープ共済連)で働いている同僚ながら、これまでお会いした事のなかった方々との交流もとても楽しいものでした。(おみやげに桃もいただきました。)

機会があれば、また参加させていただきたいと思います。

以上



募集案内



笑顔とどけ隊企画

ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティアのご案内

笑顔とどけ隊では「福島応援隊・桃ギフト」の生産者である「JAふくしま未来」からの依頼にもとづき、桃の選別作業のボランティアを募集します。収穫最盛期の共選場は人手不足に悩んでいます。大勢の皆さまのご参加をお願いします！！

【申込み方法】:

笑顔とどけ隊 <egao@jccu.coop>メールアドレス宛てに下記を記載の上、お申込み下さい。

お名前(ふりがな)

これまでの桃共選場への参加経験有無



QRコードからもどうぞ！

【概要】

1. 取組み期間と日程

(1) 期間: 7月29日(土)～8月27日(日)の土日祝の2日間(以下5つの日程)

7/29土-30日、 8/5土-6日、 8/11金祝-12土、 8/19土-20日、 8/26土-27日

8/5-6と8/11-12が最盛期です。この日程には**多数の参加**をお願いいたします。

2. 集合場所・時間・交通機関(現時点で未定。決定後に参加者に個別連絡)

(1) 往路の集合場所・時間: JR東北本線「東福島駅」改札出口に9:10集合。

復路の到着時間: 19時までには東京駅着で帰る予定です。

(2) 交通機関は新幹線およびJR在来線利用です。

作業する選果場の場所によって、集合場所と時間に変更になる可能性があります。

3. 作業場所および作業時間

(1) 場所: JAふくしま未来の福島市内、もしくは伊達市内の各共選場のいずれかになります。

(2) 作業時間: 土曜 09:30～18:00、日曜 08:30～15:30

4. 服装など

作業しやすい服装及び靴(スニーカー等)。汗拭き用タオル(手ぬぐい)。飲み物。

桃のうぶ毛で痒みを伴うことがあるので長袖をお勧めします。

帽子もしくは三角巾とエプロンを持参してください。

桃に傷がつく可能性がありますので、爪は短く切って下さい。

5. 宿泊

宿泊場所の手配は、別途連絡します。宿泊費用はJAふくしま未来が負担されます。

6. その他

作業に際しては、共選場職員の指示に従って下さい。

昼の弁当は、作業先の共選場で用意されます。

交通費は会から半額補助が出ます。

土休の人はボランティア休暇になりません。



東日本大震災復興支援

つながろう

CO-OP アクション

【お問い合わせ先】

日本生協連 菅野(masahide.kanno@jccu.coop)、 内田(michiko.uchida@jccu.coop)

前田(masahiro.maeda@jccu.coop)